



治水の偉人 周藤彌兵衛翁（1650～1752） 島根県松江市八雲町

全国世界の水の偉人と研究所のあゆみ



星は竹島
ユーラシア大陸から見た日本

健康 環境 平和はひとつ

八雲立つ出雲から和議で

対立の文明から共生の文化へを提唱

3大核大国がぶつかる日本列島と朝鮮半島は
人類覚醒のさきがけを務める世界縁結びの地

地球誕生 地政学から

創造 繁栄 破壊を繰り返す人類史を

戦前 戦中 戦後 責任に分け

未来を拓く 国是を研究

宍道湖 中海 大山圏は

政党 国民国連 が生まれる

特別な天命を担った地域

資本主義から 智本主義へ

正義から道理へ歩いた後に道ができる

創業五〇年 小松電機産業

設立三〇年 人間自然科学研究所

会長兼社長 小松昭美



円成寺住職 若月様を祭主に護摩祈祷
全国世界水の偉人 172 人の名前 功績を灯籠に記し
水と火と健康寿命の聖地 を全国 世界に発信

1994年 周藤彌兵衛翁シンポジウム



2002年 中国山東省台児荘 孔子・孟子・周藤彌兵衛・清原太兵衛像出発



2003年 中国庭園燕趙園に孔子・孟子像を建立



2005年 アリゾナ記念館訪問・献花



2006年 燕趙園に西王母と八仙人を紹介し建立



2007年 燕趙園に孫子像を建立





【世界の平和フィランソロピスト（事業家）20人

- | | | |
|-----------------------------|--------------------|-------------|
| 1. Andrew Carnegie | アンドリュー・カーネギー | (1835-1919) |
| 2. Albert Smiley | アルバート・K. スマイリー | (1828-1912) |
| 3. Alfred Nobel | アルフレッド・ノーベル | (1833-1896) |
| 4. Priscilla Peckover | プリシラー・ペコヴァー | (1833-1931) |
| 5. Jan Bloch | ジャン・ブロッホ | (1936-1902) |
| 6. Edwin Ginn | エドウィン・ジン | (1938-1914) |
| 7. Johan Wateler J.G.D. | ワテラー | (1858-1927) |
| 8. Henry Ford | ヘンリー・フォード | (1863-1947) |
| 9. John D. Rockefeller, Jr. | ジョン・D. ロックフェラー Jr. | (1874-1960) |
| 10. Cyrus Eaton | サイプラス・イートン | (1883-1979) |
| 11. Nobuo Nakano | 中野信夫 | (1910-2010) |
| 12. Young Seek Choue | 趙永植：チョウ・ヨンシク | (1921-2012) |
| 13. Joan Kroc | ジョーン・クロック | (1928-2003) |
| 14. Cora Weiss | コーラ・ワイス | (1934-) |
| 15. Ted Turner | テッド・ターナー | (1938-) |
| 16. Akio Komatsu | 小松 昭夫 | (1944-) |
| 17. Mo Ibrahim | モー・イブラハム | (1946-) |
| 18. Richard Branson | リチャード・ブランソン | (1950-) |
| 19. Bill Gates | ビル・ゲイツ | (1955-) |
| 20. Melinda Gates | ミランダ・ゲイツ | (1964-) |

2014年 ウィーンでズットナー賞を受賞、ズットナー像を貸し出し



2014年 周藤彌兵衛翁大銅像建立除幕式



2014年 出雲から陽が昇るシンポジウムでズットナー像を日本初公開





朗読劇初公演 一人で四十二年、河の流れを変えた
八雲立つ 日本出雲の偉人

悠久の河

世界史に例のない周藤彌兵衛翁物語

11/20 入場料 無料 日曜日

開催日 11/20 (日) 14:00~20:00

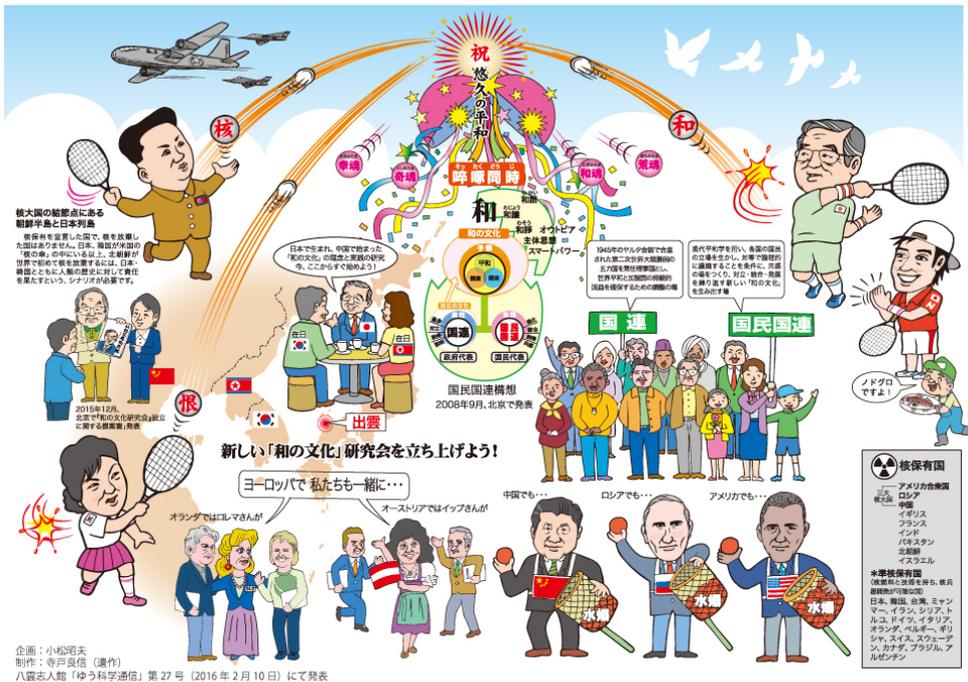
時間 14:00~20:00

場所 小松電機産業 太陽ホール

基調講演
 講演者 舟木美代子 イブ子 渡辺文枝
 14:00~14:50 オープニング / 書籍贈呈式
 15:00~15:50 思いを継承化する教育と文化
 16:00~16:50 彌兵衛翁と私の思い
 17:00~17:40 ウィーン・ハプスブルグ家の女性たち
 18:30~20:00 朗読劇 悠久の河
 交流会 会費5,000円 書籍代5

主催 人間自然科学研究所
 協賛 小松電機産業株式会社、太陽ホール、文化研究会、文化研究会、電機安住会







写真集ダウンロード



写真集ダウンロード







写真集ダウンロード



写真集ダウンロード





写真集ダウンロード



ベルタ・フォン・ズットナー



夢を信じていない人は
現実主義者ではない



岩より水



纪念中国全民族抗战爆发80周年国际二战博物馆馆长论坛
The Forum for Curators of International WWII Museums on Commemorating the 80th Anniversary of the Outbreak of the War of Chinese People's Resistance Against Japanese Aggression
Международный Форум директоров музеев Второй мировой войны, посвященный 80-летию с момента начала полномасштабной антияпонской войны китайского народа



2017年7月8日~10日 中国北京
中国全民族抗战爆发80周年記念国際二战博物館長フォーラム



ダイジェスト動画 21分47秒



講話文 PDF : 2.7MB



写真集 PDF : 4.5MB



日本の縁結びから世界の縁結びへ
正義から道理へ 歩いたあとに道ができる
Youtube 22分

ズットナー像全国世界5箇所に同時建立

2022年5月19日
PDF: 541KB

オランダ ハルク (Oranjestad)

オーストリア ウィーン (Wien)

韓国 板門店 (Gyeongju)

広島

長崎

ズットナー像の歴史、制作過程、そして世界5箇所に同時建立された経緯が詳しく紹介されています。



ズットナー像全国世界5箇所同時建立パネル
PDF : 2.1MB

人間自然科学研究所

健康 環境 平和はひとつ 正義から道理へ 歩いたあとに道ができる

星は竹島 ユーラシア大陸から見た日本 物事の時代から 意義 事物の時代へ

1988年 創立

- 1988 創立
- 1994 創立10周年記念行事
- 1995 創立10周年記念行事
- 1997 創立10周年記念行事
- 1999 創立10周年記念行事
- 2001 創立10周年記念行事
- 2002 創立10周年記念行事
- 2003 創立10周年記念行事
- 2005 創立10周年記念行事
- 2006 創立10周年記念行事
- 2007 創立10周年記念行事
- 2008 創立10周年記念行事
- 2009 創立10周年記念行事
- 2011 創立10周年記念行事
- 2013 創立10周年記念行事
- 2014 創立10周年記念行事
- 2015 創立10周年記念行事
- 2017 創立10周年記念行事
- 2018 創立10周年記念行事
- 2019 創立10周年記念行事
- 2020 創立10周年記念行事
- 2021 創立10周年記念行事
- 2022 創立10周年記念行事



人間自然科学研究所
タペストリー

PDF : 4.7MB

クラウド総合水管理システムの **パイオニア**

やくも **水神**

yakumo Suishin

特許出願中

地方創生

水の広域クロスオーバー管理が
地方の新産業を生み出す

自治体により上下水道料金 **8倍** の差
経費と担当者の負担 **劇的に削減**

雷害 **5年間保証**



多発するゲリラ豪雨などで発生する雷に備え落雷による機器の損傷を防ぐ高性能避雷システム搭載。激雷地域でも安心してお使いいただけます。



2000年発売以来

510自治体 18,200施設に導入

2024年7月現在

小松電機産業株式会社

やくも水神
ビデオアーカイブ



上下水道をはじめゲートや消雪など全国の水関連施設で採用されています

お客様の声 「やくも水神」導入自治体の取り組み

福島県 南会津町

スマートフォンによるリアルタイム監視で消火栓の水位監視として緊急時に役立てられた例
消火活動の遠隔水位監視で断水を回避

田島浄水場



糸沢加圧ポンプ場



消火栓を使用した消火活動時に **水道 62 施設** **下水道 6 施設**
(2013年9月～) (2014年2月～)

- 配水池水位を遠隔監視
- 配水池水位を見て消火栓から河川へ水利を切り替え
- 職員の負担を軽減、施設更新・統合費用削減



2018年 水道イノベーション賞特別賞

総務省
広大な山間地域の町村合併に対応したIoT技術「クラウドシステム」利用の遠隔監視・管理への変更

2019年 東北総合通信局長表彰

日本水道協会
やくも水神を活用した水道監視における住民サービス向上に多大な貢献をされたという功績での表彰

南会津町 受賞の様子・資料
北海道クローズアップ
あなたの街の水道が危ない?!



北陸農政局 九頭竜川下流農業水利事業

日本最大級の農業用水パイプライン事業にクラウドシステムを導入
継体天皇ゆかりの九頭竜川農業用水施設で採用



やくも水神によりシステムをクラウド化。スマートフォンアプリで何処にいても現場確認ができるため少人数で運用が行える。事業は1999年に着手、2011年より部分供用を開始、2016年に全面通水された。

東京都 武蔵野市

水位・貯留量公開で甚大被害を防ぐシステムへ
住民へ情報公開、指示を待たず自主避難



排水ポンプ場 雨水監視画面

リアルタイム水位情報を一般公開

- 水位情報の見える化で自主避難に活用
- 雨水施設の状況把握に
- 合流改善・雨水貯留施設を遠隔監視
- 高解像度降水ナウキャスト
- 気象庁の雨量情報をもとにポンプ制御

雨水 **11 施設**
(2013年1月～)

排水 **2 施設**
(2013年1月～)
※アンダーパス

一村一志運動 出版事業 神話の里、出雲の治水に生涯をかけた偉人たちが小説・児童文学で蘇る

人間自然科学研究所



周藤彌兵衛 (1651～1752)

悠久の河
周藤彌兵衛翁物語
日英2方面対訳本



出雲国八雲村を流れる意宇川の洪水から村を救うため、56歳で一念発起し、硬い岩山をノミと槌で切り崩し、97歳で「切通し」完成。洪水のない豊かな村をつくり102歳で大往生を遂げた。

健康 環境 平和はひとつ 全国世界の水の偉人顕彰事業を提唱



2019年6月8日に対立から共生の文化を拓くシンポジウム・全国世界の偉人顕彰祭を開催しました。水の都松江市の宍道湖岸夕日スポットの2体の袖師地蔵、周藤彌兵衛・ズットナー像の前に祭壇を設け、全国世界の水の偉人の功績が記された灯籠172基を灯す中、円成寺と長瀬寺住職による護摩折焼を執り行い、地方創生のモデルとして世界緑箱「平和と水と火と健康寿命の聖地」構想を発表させていただきました。

売り上げの一部は環境・健康・平和事業に寄付されます。

第30回 中国地域 ニュービジネス大賞 **優秀賞 受賞**
第17回 ニッポン新事業創出大賞 **特別賞 受賞**
小松電機産業株式会社

TEL 0852-32-3636 松江 東京 大阪 ソウル バンコク
<https://www.komatsuelec.co.jp/suishin/>

製品の外観および仕様は、品質向上のため予告なく変更する場合があります。カタログ上の色調は印刷のため実際とは異なる場合があります。本カタログの記載内容は2024年7月現在のものです。

施設更新革命 短時間で制御管理システム導入 水関連施設 広域管理の決定版 **やくも水神**

ポンプ制御盤 部品点数を削減し信頼性向上
交換用中板キット クラウド管理にアップグレード

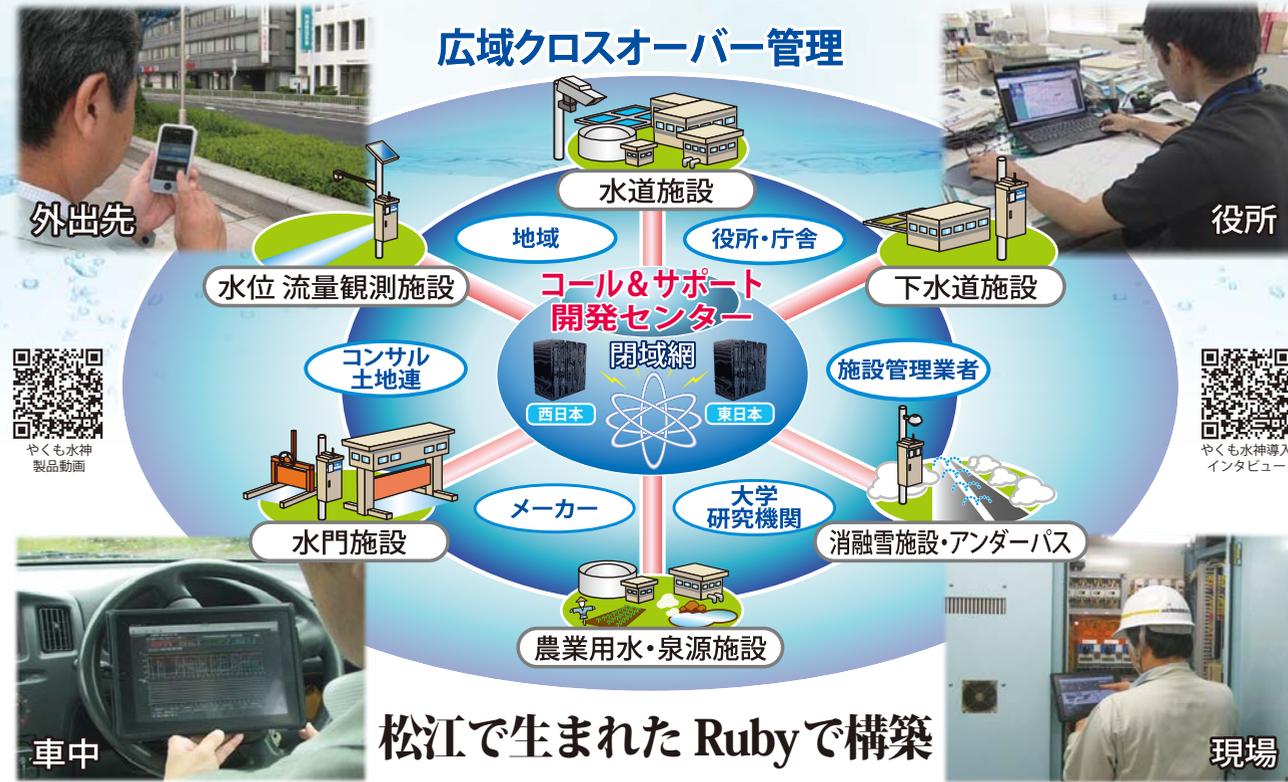


通信経路でソフトをバージョンアップ
安心管理・経費削減 部品点数 **1/5**
入出力部の故障時はコネクターと端子台を外し短時間で交換できます。

ポンプ制御盤 風水害・地震など災害に強く街の景観を損ねない スリム・コンパクト設計



従来制御盤 (W700×H1700×D350) やくも水神制御盤 (W350×H1200×D235)
容積比 **1/4**
計測器・監視装置一体型で様々な場所へ設置。スマートフォン等で場所を選ばず効率的な施設管理を実現。



松江で生まれた Ruby で構築

SA350・SA350-IF 一体型 クラウド水管理システム



情報部 SA350 出力部 SA350-IF
W174×H174×D70
W168×H62×D128

停電時2分間欠監視で標準24時間、最長7日間水位監視を継続
標準バッテリー1個で停電時2分間欠監視により24時間、最大6個内蔵時7日間水位監視を継続。

制御盤の製造元を選ばず設置後即クラウド管理開始



通報機能のみ 遠隔設定操作 リアルタイム監視対応など施設規模に応じたラインナップ。巡回業務を無くして管理者負担を軽減、広域管理をバックアップします。



災害時 安心のネットワーク・サポート体制

大規模自然災害から管理システムと重要データを守る 安全と信頼性
2011年3月11日の東日本大震災時、東西データセンター連携によりサービスを停滞させず提供。

施設管理の安定・柔軟運用を実現

管理対象施設の増加、アクセス集中時も安定・柔軟なシステム運用を実現。



遠隔支援で安心の施設管理

クラウドに共有された施設の状況をもとにコールセンターが遠隔から現場の水神の設定状況や発生中の警報をはじめ運転中の機器などの状態を把握し、現場と同じ画面で確実な対応を行います。

- 遠隔支援** 施工修理支援・顧客サポート
- トレーニング** 技術研修・人材育成
- 遠隔検査** 機器検査・保守点検

様々な水関連施設を制御管理するやくも水神ラインナップ

パッケージ水神 施設制御盤を最新システムに更新

更新又は新設

中板交換・扉パネル設置 制御盤が生まれ変わります 新設用 制御盤タイプモリナップ

部品点数 **1/2**

島根県雲南市 京都府福知山市 84 市町村 252 施設

水質管理システム

遠隔地から薬液量を調整・設定

従来容積比 **1/26**

既存制御盤 W800×H2200×D800 やくも水神端末施設 W350×H650×D235

巡回業務を無くし、場所を選ばず残塩濃度を確認調整 超コンパクト センサー直接接続 クラウドで水質データ管理

福島県南会津町 秋田県大仙市 4 市町村 25 施設

消融雪施設制御管理システム

節水・節電に優れた **グループ制御が常識に**

親局センサーの降雪情報をもとに子局を効率的に制御

新潟県新発田市 石川県白山市 20 市町村 441 施設

ゲート制御管理システム

遠隔インターロック 河川水位上昇時、複数施設を遠隔制御し氾濫を防止。

通常時 遠隔インターロック時

映像と数値で現場状況を把握 周辺確認が困難な現場はカメラ設置

福島県須賀川市 山梨県都留市 21 市町村 72 施設

水位・カメラ監視システム

太陽光発・電無線通信により引込工事不要

ソーラーパネル・バッテリー 装備により郊外の電源確保が困難な現場への設置も安心して行える構造。仮設にも最適。

コンパクト設計 制御盤内に管理端末と周辺機器一体化、用地確保が最低限で済み短時間で設置。

神奈川県厚木市 千葉県千葉市 34 市町村 92 施設

日本全国の水の偉人リスト 172人

2019年4月～2020年20年調査

はじめに

4月29日に開催する火と水のプロジェクトとし熊野大社鑽火殿で起こした火をいただき、岩坂御陵・神魂神社・切通し・剣神社・周藤彌兵衛翁像を火で繋ぐ聖火リレーを開催しました。

八雲ゆう人会の鯉のぼりとあわせ、周藤彌兵衛翁をはじめ世界の水の偉人を称え1000個の灯籠に名前・功績を記載し熊野大社の火を灯し周藤翁像と意宇川と鯉のぼりと灯籠で悠久の河を演出。

同年4月に東京で開催された日本ビジネスインテリジェンス協会東アジア友愛フォーラムを経て、7月に中華農耕文明の発祥地とも言われる楊凌・西安から発表できる可能性が見えてきました。

また、北陸農政局による九頭竜川下流農業水利事業として福井県を流れる九頭竜川の監視管理を2019年4月より範囲を拡大し開始しました。

黒字 農林水産省調査による水の偉人 56人

2019年4月24日小松電機産業調査による水の偉人 116人

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
0	酒井利雄 1891年～1969年 福井県坂井郡鳴鹿村	土木工事を主とする会社を創立した酒井利雄氏は、坂井郡八千町歩の用水取入口であった鳴鹿大堰所の改良工事を計画、戦争で中断したが、戦後、昭和22年国営九頭竜川沿岸農業水利改良事業を五ヶ年計画で施工。24年より本格的に着手。そして28年に待望の通水となり、翌年に竣工した。	福井県坂井市
1	エドウィン・ダン 1809年～1880年 アメリカ合衆国 オハイオ州	真駒内牧牛場における水の安定供給のために建設を提案し、1879年に完成した真駒内用水は、のちに水田の灌漑用水としても利用され、周辺地域における稲作の定着に大きく貢献した。北海道における畜産の普及・発展に努め、酪農、乳製品・食肉の加工技術、大型農具を用いて農作業を行う技術などを伝えた。	北海道札幌市
2	岡崎文吉 1862年～1928年 岡山県岡山市	近代日本の河川治水は捷水路方式を基本としてきましたが、岡崎の唱えた「自然主義」に基づく治水方式は近年の環境保護思想とともに再評価され千歳川河川整備計画に盛り込まれました。岡崎式河川補修の基礎技術の単床式ブロックは、石狩川河口付近の補修に採用され、またミシシッピ川流域の護岸工事にも使われています。	北海道石狩市
3	廣井 勇 1872年～1945年 高知県	広井勇博士は防波堤に当たる波の強さを測定し、防波堤に使うコンクリートの性能を試験し、日本初のコンクリート製の外洋防波堤を建設しました。小樽港の成功によって日本の近代港湾の整備が進みました。そのことから、小樽港の防波堤、特に北防波堤は重要文化財と同じくらいの価値を持つと評価されています。	北海道小樽市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
4	新渡戸傳 1793年～1871年 岩手県花巻市	「三本木原台地」と呼ばれた十和田市中心は荒れ野原、この土地の開拓に着手したのが新渡戸稲造の祖父、新渡戸傳。米の生産を安定させ農民たちの生活を救うため、奥入瀬川から水を引き、不毛の三本木原台地に2500ヘクタールの水田開発を計画。藩からの出資金のほか多くの出資者を募り傳の私財も充てられました。	青森県十和田市
5	武田源左衛門 1653年～1712年 青森県北津軽郡中里町	江戸時代の奉行だった武田源左衛門は、五所川原堰の工事担当を命ぜられ藤崎村から五所川原村まで、長さ1824間、幅平均2間半の堰を開通させたほか金木新田の開拓や治水に大いに力を振るい数々の功績を挙げました。武田源左衛門にちなんで武田村と名付けられた地域は武田地区と呼ばれるようになりました。	青森県五所川原市
6	徳田伝兵衛 江戸中期	徳川中期。金木新田開拓の功労者。元禄11年(1698年)より、水利関係の奉行として、長さ1381間(約2.2キロ)の川倉川、ならびに、長さ2210間(約4キロ)のオノ神川開削を指揮しました。また藤枝溜池を造成するとともに、岩木川の堤防築造などにも尽力しました。	青森県五所川原市
7	鳴海勘兵衛 不明～1721年	津軽信政から藩の直営工事の開発派立頭(指揮者)を命ぜられ、五所川原新田の開拓に成功し、五所川原遺初代の代官となりました。また、板屋野木(北津軽郡板柳町)の蔵奉行にも任じられました。続いて、金木新田の開拓にも尽力し、藤枝溜池(金木町)の築造に協力し、岩木川堤防の建設にも努力しました。	青森県五所川原市
8	阿部武智雄 1861年～1931年 青森県五所川原市	岩木川改修の恩人。県会議員時代から津軽の生命線である岩木川の改修事業実施に奔走、明治33年輕1市4郡の県議員、市町村長、貴衆両院議員ほか有力者に呼びかけ岩木川改修期成同盟会を結成、自ら会長となって政府並びに両院に陳情し、ついに50有余年後の今日まで続けられている一大事業をもたらしました。	青森県五所川原市
9	後藤寿庵 1577年～1638年 岩手県	後藤寿庵は、水不足により砂漠の様だと言われた地に、西洋の技術を取り入れ胆沢川から水を引き上げる「寿安堰」を造り、豊かな穀倉地帯の礎を築きました。大正3年、治水の功により従五位が贈られました。昭和6年には寿庵の館だった跡に寿庵廟堂が建てられ、毎年9月11日には寿庵祭が行なわれています。	岩手県奥州市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
10	川村孫兵衛 1575年～1648年 山口県萩市	仙台北城下の水不足を解消させるべく、広瀬川の上流から支流を作り、その水を地中に染み込ませることで地下水を確保した。この際に作った用水路が現在の四ツ谷用水の原型となった。元和2年から寛永3年に至り、北上川の治水工事を行なって仙台藩の石高を大きく向上させた。また、これによって陸奥北部との海運も発達した。	宮城県 石巻市
11	石母田正輔 1861年～1941年 宮城県石巻市	百年ほど前の角田市周辺は、阿武隈川が流れているものの、川よりも土地が高く水田に水を引くことがでないため、小さな沼や溜池に頼っていましたが水量が少なく米を十分に作れませんでした。 阿武隈川からの取水計画実現を先頭に立て成し遂げた高山善右衛門は、この功績により高山上水翁と呼ばれています。	宮城県 石巻市
12	高山善右衛門 (高山上水翁) 1863年～1928年 宮城県角田市	百年ほど前の角田市周辺は、阿武隈川が流れているものの、川よりも土地が高く水田に水を引くことがでないため、小さな沼や溜池に頼っていましたが水量が少なく米を十分に作れませんでした。 阿武隈川からの取水計画実現を先頭に立て成し遂げた高山善右衛門は、この功績により高山上水翁と呼ばれています。	宮城県 角田市
13	渡部斧松 1793年～1856年 秋田県	江戸時代後期の老農、農業指導者、農業経営者。 1793年、足軽の子に生まれた渡部斧松は、久保田藩において、寒風山山麓の滝の頭湧水から水路を掘削した鳥居長根の開墾や、渡部新村の経営をはじめとして、久保田藩の水利、開墾、救済、殖産等の各事業において、多大な功績を遺しました。	宮城県 男鹿市
14	鎌田三之助 1863年～1950年 宮城県大崎市	鎌田三之助「わらじ村長」はわらじを履いて村内を巡回した為、村民から「わらじ村長」と呼ばれ親しまれた。 特に鎌田三之助が力を入れた事は品井沼干拓事業で、昔は数年に一度、大雨で吉田川などが氾濫し、村民は大変困っていた。 それを現在の品井沼のように水害につよくしたのが鎌田三之助です。	宮城県 大崎市
15	片平観平 1770年～1841年 宮城県白石市	観平は、大雨のたびに水害に苦しむ白石の人々を救うため、私財を投げ打って治水工事を行いました。大堰に頼らずに白石川からの水を引くための隧道を掘り、年月をかけ苦難を乗り越えて「蔵本大堰切通トンネル」は完成しました。現在も地元白石の人々は、これを「切通(きんどし)」と呼んで大切に利用しています。	宮城県 白石市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
16	ピーター・F・ヤンセン 1902年～1982年 オランダ ドルドレヒト	オランダ技術コンサルタントおよび世界銀行顧問として国際的な活躍を展開。 特に八郎潟については昭和29年、現地を視察して干拓計画の概要とその有利性を説いた「日本の干拓についての所見」を政府に提言し、さらに数次にわたる来日指導によって事業の進展に貢献した功績は大きい。	秋田県 男鹿市
17	榊田清兵衛 1864年～1929年 秋田県大仙市	最上川に合流していた赤川は、大雨のたびに水害をおこしていた。 田んぼをつぶして赤川の川幅を広げようという計画が考えられた。農家の人は田んぼをなくしては困る。 という話しを聞き田んぼをつぶすかわりに砂丘をほって、最上川と赤川を切りはなす治水工事を政府にねがい出て、新しい川の流れをつくる工事が始まった。	秋田県 大仙市
18	鎌田孫左衛門 1653年～1712年 太平八田字上八田	荒廃した水源の枯渇を解消するため、太平川から水を引いて灌漑用水をつくることを計画し測量を開始。 文久2年70歳にして私財を投じ2年3カ月後に完成させ、用水路は孫左衛門堰と名付けられた。 これにより目長崎から八田、柳田、広面にかけて約10キロメートル、335ヘクタールに及ぶ広大な荒地が開田された。	秋田県 昭島市
19	石川理紀之助 1845年～1915年 秋田県潟上市	石川理紀之助は、明治時代の農村指導者で「老農」と敬称され、「寝ていて人を起こすことなかれ」の言葉を残したことで知られています。 「老農」とは、在来の農法を研究し、これに自らの体験を加えて高い農業技術を身につけた、農業熱心家の人のことを言います。石川理紀之助は、その老農の代表的な人物です。	秋田県 潟上市
20	上杉鷹山 1751年～1822年 宮城県	17歳で藩主となり、厳しい藩の財政再建、人々を豊かにする事業に取り組みました。 大倭約令と一緒にいったのが農業開発です。 上杉鷹山は安永元年(1772年)、中国の成功例を真似ました。遠山村で藩主が自ら田を耕す「籍田の礼」を行い、農業の尊さ、大切さを、身をもって示しました。	山形県 米沢市
21	阿部永作 1854年～1927年 山形県酒田市	北俣村100年の大計をたてるには、水源林の育成にあると考えた。明治維新後、薪炭材料に奥山の雑木を乱伐し、水源林の重要性を説いても耳を傾ける者は少なかった。これを説得し、15年間雑木の伐採を厳禁し、水源林の育成に努めた。2700町歩の水源林は守られ、北俣村の洪水は少なくなり、田も水で潤うようになった。	山形県 酒田市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
22	石塚綱吉 1867年～1946年 山形県酒田市	灌漑で畑を田に変えることで生産力を増大し、貧しい村を更生させ豊かにしようと決意。 それには動力揚水によって灌漑揚水を確認し、開田することに利便性があると考え、活動を始め、同村地内に揚水機を設置しました。 綱吉の熱心な働きで昭和9年当時、百町歩余の灌漑開墾事業に成功し荒れていた地は美田となりました。	山形県 酒田市
23	佐々木彦作 1819年～1880年 山形県庄内町	最上川下流左岸北部の一部では北館大堰の恩恵を受けていたが、狩川・余目・大和・常万・新堀の村々は、昔から水利の便が悪く農民は干害に苦しんでいました。 彦作は新しい堰を造る決意し計画に着手、最初の計画は失敗しましたが事業家吉田寅松によって彦作の夢が明治43年8月実現し、990町歩が開田されました。	山形県 庄内町
24	佐藤文治 1870年～1934年 山形県酒田市	「佐藤氏紀功碑」の碑文に「佐藤文治氏奥井排水溝及赤川京田川堤防事業奏効以至今日多依氏之力我等慕其德有志相謀建一碑石以表微意」とある。 奥井排水溝と赤川、京田川堤防事業の完成が佐藤文治に負うところが大きく、その徳を称えている。文治はこの地方の治水に生涯をかけた人である。	山形県 酒田市
25	木村九兵衛 1854年～1933年 山形県鶴岡市	明治30年代の米作りでは水不足に悩まされていました。 耕地整理や開田が進み農業用水の需要は増大する一方、田植え前後や渇水期は各地で水争いが絶えず、九兵衛は電力を利用した灌漑「電力揚水機」の設置を発案しました。 明治三十五年に矢馳揚水機組合を組織し湯尻川に揚水機場を設置しました。	山形県 鶴岡市
26	梅津晴宗 1767年～1843年	最上川川南の酒田市広野地区は昔ハンノキ谷地と呼ばれ大小多くの沼が点在していました。 幾多の先人が開発を進めましたが洪水被害が度重なり、梅津春宗は佐藤世八郎等12名の村民に諮り、溝、水門、沼を深くし貯水量を増やす計画を藩の許可を待たず遂行し約4200人の人夫と3年間の月日をかけ難工事を完成させました。	山形県 酒田市
27	今野茂作 1818年～1882年 山形県遊佐町	日向川の度重なる洪水によって寛永11年にはその3分の2近くを失い、さらに下藤塚新田村、東野新田村のように洪水から逃れるために全村移転しているほどであった。 日向川流域の村々を洪水から救うために、西山に新川を掘割して日向川を直接日本海に注ぐ工事を完成させたのが今野茂作である。	山形県 酒田市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
28	コルネリス・ファン・ドールン 1837年～1931年 オランダ プルメン	オランダの土木技術者で、明治時代の政府や府県などによって雇用された外国人で約8年間にわたって日本で河川・港湾の整備計画を立て、オランダ人土木技師のリーダーを務めた。携わった事業には、大きな成果を上げた安積疎水や、全面的な失敗に終わった野蒜築港などさまざまな事例がある。	福島県 須賀川市
29	小林久敬 1821年～1892年 福島県那須川市	須賀川は日照りが続き、稲が実らず農民は苦しんでいた。久敬は猪苗代湖から水を引き人々を救おうと考え猪苗代湖と岩瀬地方が見渡せる斉木峠にトンネルを通すことを考えたが、明治政府と県は別ルートで安積疎水の工事を行い完成した。 後に久敬の情熱と見識が認められ、民間功労者としてその労をねぎらわれた。	福島県 那須川市
30	小野口仁蔵 不詳 福島県郡山市	安積疎水に功績を残した人物です。 安積疎水は、古来より水利が悪く不毛の大地だった郡山の安積原野に、猪苗代湖から湖水を引いた一大事業です。 この安積疎水の開削は、明治12年から始まり、日本で初の国直轄の農業水利事業となりました。 郡山市周辺の農業に多大な恩恵をもたらしたことで知られています。	福島県 那須川市
31	永田茂衛門 生年不詳～1659年 山梨県甲斐市	永田茂衛門とその子勘衛門は水戸藩の三大江堰とよばれる辰ノ口岩崎小場の開設工事に従事し完成させた人物です。 久慈川や那珂川という大河川に大規模な堰を築き水路を設ける大規模開発に着手します。 その指揮に当たった望月五郎左衛門が江堰開設のための技術者として目をつけたのが永田茂衛門父子でした。	茨城県 常陸市
32	須田誠太郎 1881年～1969年 茨城県香澄村	須田誠太郎は利根川豪雨水害によって母を失い、一生を治水対策にささげる決心をしました。 その後新聞記者の肩書きを活かし利根川堤防、などを完成させるも洪水の被害は絶えず、私財を使い果たし水害対策に専念して利根川治水対策に努力しました。まさに利根川治水の父として一身をなげうっての事業でした。	茨城県 潮来市
33	色川三郎兵衛 1842年～1905年 千葉県	維新後に政界へ進出し県議員を経て、明治23年に立憲改進黨から立候補し当選し衆議院議員を2期務める。 在任中には、鉄道会社に働きかけて日本鉄道海岸線（現常磐線）の敷設計画を変更させ、当時水害に悩まされていた土浦市の霞ヶ浦側に、線路の盛土を湖岸堤の代わりとして作らせるなど、水害対策に尽力した。	茨城県 常陸市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
34	田中正造 1841年～1913年 栃木県佐野市	明治時代初期の足尾鉍毒事件、渡良瀬川および利根川水系の水害に対して、その全生涯を反公害闘争と民衆救済のために捧げた政治家。 精力的な治水行脚を行い、水害の原因が渡良瀬川水源地域の森林の大量伐採、関宿の突堤と栗橋鉄橋の設置にあると喝破し、「近自然河川工法」の先駆となる。	群馬県 桐生市
35	印南丈作 1831年～1888年 栃木県日光市	那須野ヶ原は、那珂川、蛇尾川、箒川などによってつくられた複合扇状地で地下に厚く砂、小石が堆積し、雨や川の水はすぐに地下に浸透してしまい、水利に恵まれない原野でありました。那須野ヶ原の開拓のため、人々の生活のため、一日も早く水を引きたいと願っていた人々の中に「印南丈作」と「矢板武」がおりました。	栃木県 那須塩原市
36	矢板武 1849年～1922年 栃木県矢板市	明治から大正時代の開拓者、実業家 嘉永2年11月14日生まれ。 明治13年、印南丈作と那須開墾社を組織し、栃木県那須野ヶ原の開拓、那須疏水の開削につくしました。 30年栃木県会議員。下野銀行、矢板農場などを創立、また下野新聞社長を務めるなど多くの分野で栃木地域に多大な功績を残しました。	栃木県 那須塩原市
37	井澤弥惣兵衛 1654年～1731年 和歌山県海南市	幕府は米を多く作るため八丁堤を切り開き、見沼ため井を田に変える計画を立てた。 井澤弥惣兵衛はため井の代わりの用水を引くことにしたのが見沼代用水の始まりです。見沼代用水は利根川から取水し八丁堤まで60キロメートルも流れる長い用水です。弥惣兵衛はこの長い見沼代用水を引く工事を村人の協力で完成させた。	埼玉県 さいたま市
38	奥貫友山 1708年～1787年 埼玉県川越市	寛保2年、荒川・利根川が決壊して江戸時代最大の大洪水が発生。 私財すべてを農民に抛出し率先して救助にあたり、自らの田畑を質入した金で食糧を買い続け1年に渡って窮民を救援し続け、最終的に10万人の命を救ったとされる。その後も、自費で水塚と呼ばれる植林を続け、幕府に防災策を言上し、治水や防災に尽力した。	埼玉県 川越市
39	白井武左衛門 江戸中期 埼玉県志木市	用水に乏しい宗岡に野火止用水を引くため、交差する新河岸川に「いろは樋」という掛樋を架設した。 この架設によって宗岡村の農業発展に寄与した。 また宗岡村の洪水を防ぐため、東西の新河岸川堤と荒川堤を結ぶ北側の佃堤、南側の新田場堤を築造し、宗岡村の惣囲堤を完成させ、治水整備に尽力。	埼玉県 志木市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
40	田口清平 1832年～1901年 埼玉県久喜市	若い時に利根川の洪水による被災をみて、治水に関する技術や知識を習得する。 権現堂川の行幸堤（幸手市）の築堤にあたって、水利掛として中心的な役割を果たし、明治天皇行幸の際に利根川治水の実情を奏上した。なお、清平が中心となって築堤した行幸堤は、現在は桜の名所となっている。	埼玉県 久喜市
41	大原幽学 1797年～1858年 愛知県尾張	那須野ヶ原は、那珂川、蛇尾川、箒川などによってつくられた複合扇状地で地下に厚く砂、小石が堆積し、雨や川の水はすぐに地下に浸透してしまい、水利に恵まれない原野でありました。 那須野ヶ原の開拓のため、人々の生活のため、一日も早く水を引きたいと願っていた人々の中に「印南丈作」と「矢板武」がおりました。	千葉県 旭市
42	安松金右衛門 1611年～1686年 兵庫県	承応4年、玉川上水の用水路が計画され、安松金右衛門に工事を命じられた。小川村から取水し新河岸川まで6里を掘り通しわずか40日という短工期で野火止用水を完成させた。 これにより野火止200石の地は2千石を産するようになり、完成後、大雨が降った翌日以降、用水を流れる水を見た農民たちは大喜びしたと言う。	東京都 立川市
43	古市公威 1854年～1934年 東京都	内務省土木局のトップとして全国の河川治水、港湾の修築のみならず、日本近代土木行政の骨格を作るとともに、工科大学長・土木学会長・工学会の会長として、日本近代工学ならびに土木工学の制度を作りました。 技術上・行政上に非凡の才能を振るい、近代土木界の最高権威とされました。	東京都 渋谷区
44	川崎平右衛門 1694年～1767年 東京都府中市	武蔵国押立村（現在の押立町）で生まれ、地元府中周辺の多摩川大洪水の後の治水工事や六所宮（大國魂神社）の東照宮の修理などに尽力するとともに、多摩地域の発展の礎となった武蔵野新田の安定化や新田村々の救済・復興の立役者となる。世界遺産で有名な島根県大田市の石見銀山の経営でも活躍。	東京都 府中市
45	伊奈忠次 1550年～1610年 愛知県西尾市	埼玉郡粕壁宿（春日部市）の名主。 水害を防ぐために自費を投じて500間の堤を築いた。 その後、再度洪水が襲ったが、戸毎に説いて土俵をつくらせ古堤の上に積ませた。 昼夜の働きにより下流の田地およそ2万石以上の流失を免れることができた。これが喜蔵堤と名付けられた堤である。	埼玉県 伊那町

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
46	見川喜蔵 1739年～1805年 埼玉県春日部市	天明6年、関東は大洪水により飢饉となったが、自家用の米を出し地主を説得して米麦を供出させ、窮乏した農民を救済。 水害を防ぐため自費を投じて500間の堤を築いた。 その後再度洪水が襲ったが、戸毎に説いて盛り土を古堤の上に積ませ、二万石以上の流失を免れることができた。 これが喜蔵堤と名付けられた堤である。	埼玉県 春日部市
47	大久保藤五郎 不詳～1617年 愛知県岡崎市	天正18年江戸城下の上水工の命を受ける。 その後、約3か月で小石川目白台下の河流を神田方面に通し、これは後の神田上水の元となったとされている。 また、この功績により家康から「主水」の名を与えられたが、水が濁ることを嫌って「もんど」ではなく「もんと」と発音するように命じられた。	東京都 台東区
48	伊奈忠治 1592年～1653年 埼玉県	幕府に勘定方として出仕していた忠治は父、兄の仕事を引き継いで関八州の治水工事、新田開発、河川改修を行い、荒川開削、江戸川開削に携わりました。 江戸初期における利根川東遷事業の多くが忠治の業績であり、鬼怒川と小貝川の分流工事や下総国、常陸国一帯の堤防工事などを担当しました。	埼玉県 川口市
49	大川平三郎 1860年～1936年 埼玉県坂戸市	日本の製紙王と呼ばれる大川財閥の創始者。 小畔川や越辺川は度々氾濫を繰り返し、明治43年にも大洪水を引き起こしました。 全額私費で地元の原次郎の協力を得て、約1キロメートルの堤防を建設しました。 当時は大河でさえ国の河川管理は稀であり、今日それは「大川堤」と呼ばれています。	埼玉県 坂戸市
50	原次郎 1895年～1988年 埼玉県三芳野村	原次郎が生まれ育った集落は、入間川、越辺川の氾濫で水害に見舞われ、耕地が泥水につき、農作物は半分、よくても七分ほど実ればいいという状態で貧しい村だった。 「治水を図り、貧困をなくすこと」という強い決意を胸に、入間川、越辺川、小畔川の国の直轄改修工事河川に指定や、三川分流工事の実現など治水に尽力した。	埼玉県 三芳野村
51	望月珪治 1883年～1969年 神奈川県海老名村	望月翁は、昭和5年近郷7か町村を結合して相模川左岸普通水利組合を設立、管理者となり、数十年にわたるかんがい用排水改良事業の完成に尽力しました。 この事業により延長20キロメートル余りの水路、排水施設が完成し、2,200ヘクタールの耕地が水害と干ばつから救われました。	神奈川県 海老名村

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
52	徳嶋兵左衛門 1620年?～1684年 山梨県	釜無川の右岸地域は、甲府盆地の北西部位置し、釜無川の段丘扇状地と御勅使川扇状地にまたがり北部が水田地帯で南部は春から秋にかけてたくさんの果樹が実ります。 この地域に欠かすことが出来ないのが延長約17キロメートルに達する県内最大の農業水路「徳島堰」です。 この徳島堰は「徳嶋兵左衛門」により開削されました。	山梨県 南アルプス市
53	武田信玄 1521年～1573年 甲斐国	甲府盆地は古来から釜無川、笛吹川などの氾濫原で、特に御勅使川は日本有数の扇状地を流れ、多量の土砂を釜無川に運び、その河床を上げ、水位を高くし、堤防の決壊を繰り返す甲州第一の水難場として恐れられていた。 武田信玄は、大治水計画をなし、以来約20年の歳月を費やし、この大土木工事を完成させた。	山梨県 甲斐市
54	坂本養川 1736年～1809年 長野県茅野市	1775年高島藩に用水開発を請願しましたが採用されず、その後、何度かの上申の末、1785年(天明5年)、最初の出願以来11年かかってその計画は陽の目をみました。 繰越堰として最初の堰となる「滝の湯堰」の開削が行われたのです。 以後1800年までの間に十五の堰が開かれました。	長野県 茅野市
55	本間屋数右衛門 1716年～1801年 新潟県長岡市	三島郡寺泊の豪商、大川津分水発願者。 江戸幕府に対し分水建設を請願したが許可されず天保13年には幕府も計画調査を実施したが莫大な費用及び周辺集落の反対により起工には至らなかった。 明治維新後の1869年に白根の庄屋田沢与左衛門らが分水工事を越後府に請願、ようやく分水工事を行うことが決定した。	新潟県 長岡市
56	小栗美作 1626年～1687年 新潟県	中江用水の開削は、寛文の大干ばつ後、関川から取水して別所川までの間をかんがいでいた「およべ川用水」を掘りつぐ構想を樹立しましたが、大普請のため続けることができませんでした。 そこで、美作が中心となり、藩営事業として1674年(延宝2年)工事に着手し、1678年に完成しました。	新潟県 上越市
57	国友末蔵 1881年～1960年 京都府京都市	明治四十年、関川水系の落差を有効に使った名香山村蔵々の500キロワットの水路式発電所を建設。 国友の発電事業の中で特筆されるものは野尻湖の水を冬期間発電に用い雪融水を野尻湖に吸い上げる池尻川揚水発電所を建設したことでした。 これにより発電と灌漑用水とも有効利用できるようになりました。	新潟県 高田市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
58	太田孫次右衛門 1852年～1911年 新潟県美守村	明治4年高田の医師瀬尾玄弘は四の辻の自宅で知命堂を開業しました。孫次右衛門は地域医療向上のため総合病院設立をめざす瀬尾に支援を行い明治24年「知命堂病院」の創設に尽力しました。 また、孫次右衛門は妙高市赤倉付近に土地を所有していたことから、地元の人々と連携し温泉の開発を行いました。	新潟県 妙高市
59	丸山豊次郎 1868年～1933年 新潟県上越市	新潟県上越市に生まれた丸山豊次郎は地元の住民間で長年続いた水争いの禍根を断とうと思い、川の水利権の確率を図るため尽力しました。また、1933年(昭和8年)4月には良質な飲用水を利用できるように地域の簡易水道の敷設に着工し、同年6月には竣工式を行いました。晩年を地元開発に取り組みました。	新潟県 高田市
60	古川長四郎 1895年～1949年 新潟県直江津市	古川長四郎は、直江津の本砂山町(現在の中央四丁目)の廻船問屋に生まれ、佐渡商船株式会社の第4代目社長に就任。 その後県議員をつとめ、1932年(昭和7年)に佐渡汽船株式会社を設立した。 1942年には直江津町長に就任し、直江津港修築工事期成同盟会を結成、直江津港の発展に尽力した。	新潟県 直江津市
61	松尾与十郎 1832年～1886年 新潟県三条市	片口村の旧庄屋に生まれた与十郎は、水害の惨状を目の当たりにし、人々を守るには五十嵐川の堤防以外無いと決意、当時堤防をつくることに反対していた五十嵐川の北側の人々を説得し、南側の堤防をつくる許可を出しました。 与十郎は県から補助金が出なかったため、私財を使い堤防をつくりはじめ明治9年に完成しました。	新潟県 三条市
62	椎名道三 1790年～1857年 富山県	道三は、厳しい山村で育ったため「農地さえあれば」と、土木・測量の技術習得に励み、14歳のとき、少しの面積であったものの、村の谷川を流れる水を集めて開田し、世間で評判になったといわれています。 道三が生涯に開田した面積は1200ヘクタールに達し多くの農民を貧困から救いました。	富山県 滑川市
63	ヨハネス・デ・レーケ 1842年～1913年 オランダ コレインスプラート	明治24年7月、大雨災害の折、常願寺川流域も安政の大水害に次ぐ災害となりました。 県知事は国に専門技師の派遣を要請デ・レーケが同年8月6日富山に到着し9月2日石川県へ出発するまでに常願寺川を始め黒部川、片貝川、上市川、庄川、神通川の各水系と伏木港を視察し治水計画を立てました。	富山県 富山市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
64	伊東彦四郎 1758年～1834年 富山県朝日町	加賀藩に黒部川からの用水開削を請願し1796年、十一代藩主・前田治脩から財政援助を得ました。 しかし、水路をつくる右岸は断崖絶壁で測量機械の無い時代、彦四郎は工夫し提灯の灯りを利用し夜、岩壁に登った人夫に、対岸から提灯の上げ下げを指図して、岸壁に印をつけさせて測量を進めました。	富山県 黒部市
65	浅野総一郎 1848年～1930年 富山県氷見市	日本セメント産業の創設者で、後の浅野財閥の総帥。1898年に浅野セメント合資会社を設立し。多くの関連事業を設立した。鶴見一川崎間の遠浅の海岸を埋立て、大工業地帯を造成し製鉄所、造船所も設立した。 日本で初めてとなる耐震設計理論を取り入れた小牧ダムを作ったことで周辺地域の開発が進んだ。	富山県 砺波市
66	高田雪太郎 1859年～1903年 熊本県玉名市	明治24年の大洪水により大きな被害を被った際、富山県知事は、常願寺川改修の必要性を痛感し政府に要請。政府はデ・レーケを派遣した。 デ・レーケは県内各河川の調査を行い、そのほとんどに雪太郎は随行し記録を残した。 そして基本計画を作成しデ・レーケの指導の下、雪太郎が施工することとなった。	富山県 富山市
67	佐々成政 1536年～1588年 愛知県名古屋市	戦国時代、常願寺川はたびたび氾濫し、水害が起っていた。佐々成政は治水に取り組み「佐々堤」の築造や、いたち川の改修を行なった。 常西用水路の川底には成政が造った石堤の跡が現在も残っている。また、佐々成政は治水工事につきものだった人柱を禁じて、代わりに自身の名前を書いた石を埋めるようにした。	富山県 富山市
68	佐藤助九郎 1847年～1904年 富山県砺波市	富山県西部を流れる庄川は幾度となく川の氾濫による水害に苦しめられていた。 助九郎16歳のときに佐藤組を起し常願寺川の川工事を請け負うがその後何度も洪水をくりかえした。 明治24年の常願寺川大洪水の工事の際に、内務省付属のオランダ人技師デ・レーケを招聘して指導を受け、見事に工事を成功させた。	富山県 砺波市
69	高多久兵衛 1851年～1907年 石川県金沢市	石川県令はルクセンブルグの耕地整理を模範とし田区改正を行うよう久兵衛に依頼しました。久兵衛は上安原村の地主に説明したが費用がかさむことから反対された。以前から用水路改修を行うなど農業改良に熱心だった久兵衛はあきらめず工事費用の一時立て替えや所得補償を約束することでようやく承諾を得て着工した。	石川県 加賀市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
70	渡辺泉龍 生年不詳～1672年 福井県坂井市	丸岡町の野中山王、山崎三ヶの田へ水を運ぶ「新江用水路」は今から約300年前に渡辺泉龍と丸岡藩によって作られた用水路です。 新江用水路ができる前の野中山王、山崎三ヶ付近は荒地で、田も少なく農家の方もあまり住んでおらずこの荒地を田にするために泉龍が立ち上がりました。	福井県坂井市
71	継体天皇 507年～531年?	継体天皇は、大規模な治水を行い九頭竜川・足羽川・日野川の三大河川を造ることで湿原の干拓に成功した。 これにより越前平野は実り豊かな土地となり、人々が定住できるようになった。 河川の整備に続いて港を開き水運を発展させることで稲作、養蚕、採石、製紙など様々な産業を発達させた。	福井県坂井市
72	喜田吉右衛門 生年不詳～1671年 愛知県尾張	寛文3年、現在の関市一帯は水不足に悩まされていました。この地に移住してきた尾張藩の浪人喜田吉右衛門と弟の林幽閑はこれを見かねて、柴山伊兵衛と相談し長良川から水を引く用水を計画しました。 着工から十年を経て完成した約17キロメートルの曾代用水により荒地は美しい田んぼに生まれ変わりました。	岐阜県関市
73	林幽閑 不詳 愛知県尾張	寛文3年、現在の関市一帯は水不足に悩まされていました。 この地に移住してきた尾張藩の浪人喜田吉右衛門と弟の林幽閑はこれを見かねて、柴山伊兵衛と相談し長良川から水を引く用水を計画しました。 着工から10年を経て完成した約17キロメートルの曾代用水により荒地は美しい田んぼに生まれ変わりました。	岐阜県関市
74	柴山伊兵衛 1611年～1703年 岐阜県武儀郡	寛文3年、現在の関市一帯は水利の便が悪く、水不足に悩まされていました。 この地に移住してきた尾張藩の浪人喜田吉右衛門と弟の林幽閑はこれを見かねて、柴山伊兵衛と相談し長良川から水を引く用水を計画しました。 着工から10年を経て完成した約17キロメートルの用水により荒地は美しい田んぼに生まれ変わりました。	岐阜県関市
75	平田鞠負 1704年～1755年 鹿児島県	洪水をたびたび起こす木曾三川から濃尾平野を守るために堤防工事を幕府の命令により薩摩藩がすることになる。 平田鞠負は難工事であった宝暦治水の指揮をとる。 流行病の影響もあり、工事は難航し33名が病死する。 工事により薩摩藩の財政は悪化し平田鞠負は工事完了後に責任をとって自害する。	岐阜県養老郡

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
76	山田省三郎 1843年～1916年 岐阜県岐阜市	洪水の多い輪中という地域に生まれ水害で苦しんだ経験を持つ。県会議員当選後に同じく水で苦しむ他の議員と協力し西濃治水派を形成する。 堤防の建設費を直接被害を受けた人の負担ではなく、県の負担にするように訴えた。 治水の重要性を訴え続け「治水共同社」を結成するなど木曾三川の改修に尽力する。	岐阜県愛西市
77	酒井七右衛門 ?年～1819年	新しく堤防を造る場合は幕府の許可が必要になるが幕府の許可は簡単には下りなかった。水害で苦しむ人のために、幕府の許可を得るために尽力する。 1813年に幕府は酒井七右衛門の説明により築堤を許可した。畑繋堤には1600メートルにもなった。堤防に貢献した人物として畑繋神社に祀られている。	岐阜県岐阜市
78	金森吉次郎 1864年～1930年 岐阜県大垣市	明治29年に大洪水が西濃地方を襲い、一命を捨てる覚悟で村人を集め堤防を切り割り、輪中内にたまっていた水を揖斐川へ放出。 結果、8000戸の家屋と4万人の人命を救うことになる。 大正12年には、洪水の恐ろしさを広く世間に知らせようと、明治29年の浸水位を礎石に刻み洪水標とした。	岐阜県木曾三川水系
79	金原明善 1832年～1923年 静岡県浜松市	明治10年全財産献納の覚悟を決めた明善は内務卿大久保利通に築堤工事実現の為に謁見した。 明善自身も一介の田舎農民が内務卿への謁見は叶わないと思っていた。ところが快く大久保利通との謁見は実現した。 それは長年、誠実一途に天竜川の治水工事に奔走している明善の話が大久保利通の耳に入っていたからである。	静岡県浜松市
80	名倉五郎助 不詳 静岡県掛川市	西大淵村から、今沢新田にかけての田畑は水の便が悪く、時に水争いもありました。 水不足により育てた稲が枯れるなど苦しい生活から人々を救うために坊主淵川の水を田畑に引き入れるための川底を通る地下水路を造り、百ヘクタールに及ぶ広大な田畑に水を引き人々の生活を支えるための工事を始めた。	静岡県掛川市
81	中条右近太夫 不詳 静岡県菊川市	右近太夫は、干ばつ被害に困窮していた嶺田地区に隣村の奈良洲から水を引こうと計画、用水の建設を幕府に直接訴えました。 幕府は建設を認めたものの領主を飛び越えて幕府に直接訴え出ることに厳しく禁じられており右近太夫は処刑されました。死後に井の宮神社に祀られ、井宮様と呼ばれ地域の方から信仰を集めました。	静岡県菊川市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
82	松下幸一 1894年～不詳 静岡県菊川市	幸一は、水害を調べたり、改修費用の援助を求めため国や県へお願いしたりしました。 しかし、何度お願いしても良い返事をもらえませんでした。それでも幸一はあきらめずに国へお願いし続けました。この誰にも負けないねばり強さと努力のおかげで、昭和8年(1933年)、悲願の堤防改修工事が始まりました。	静岡県 菊川市
83	黒田定七郎 1861年～不詳 静岡県菊川市	菊川や牛瀬川などの支流は、農業に欠かせない水を与えてくれる一方で、度々水害を起こし、その都度大きな被害を受けていました。 定七郎は、治水問題に精魂を傾け、養父源五郎の意思を継ぎ、河川改修運動に同士を集結。先頭に立ち、菊川の堤防を改修することに全力を注ぎました。	静岡県 菊川市
84	本間賢三 不詳 静岡県牧之原市	たびたび氾濫する坂口谷川の拡幅を行い、大井川から水を引き、干ばつに備えて水路を作るため、村人を説得し集めた資金で拡幅工事は明治4年に完成。 大井川から水を引く工事は、長さ300メートルの隧道工事が必要であり当時は困難と多くの費用が掛かったが私財を投じて工事を続け、明治9年に完成した。	静岡県 牧之原市
85	犬塚祐一郎 不詳	天保の大飢饉の2年前、中泉代官所(現磐田市)に幕府の役人として赴任。 この地は土地が低く洪水地帯であったが、この地の水を流す排水路(蝦島水道)を造り、悪夢だった毎年の水害から人々を救った。 また、天竜川に大堤防を造り、河川敷の新田開発や兩岸の水防組合設立など大きな業績を残した。	静岡県 磐田市
86	都築弥厚 1765年～1833年 愛知県安城市	明治用水は矢作川を水源とし愛知県安城市を中心に八市にまたがる約6000ヘクタールの農地を灌漑する農業用水です。 この地域は小規模な水田が開かれていましたが農民は常に水不足に悩まされていました。 矢作川の水を碧海台地に導いて大規模な新田開発を計画したのが和泉村の都築弥厚翁でした。	愛知県 安城市
87	久野庄太郎 1900年～1997年 愛知県知多半島	愛知用水は、水に苦しむ知多半島のため昭和32年から始まったプロジェクトです。御嶽山に牧尾ダムを造り、木曾川から水路を引いて知多半島を潤す、その後の高度経済成長の先駆けともなった大事業でした。 知多半島の農民としてその夢の用水の実現に命をかけてきたのが久野庄太郎翁と同士・浜島辰雄氏でした。	愛知県 知多半島

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
88	伊奈忠次 1550年～1610年 愛知県西尾市	徳川家康の命令を受け洪水の被害を減らすために犬山から弥富にまで続く御囲堤50キロメートルを造る。 伊奈備前堤とも呼ばれる。 「伊奈流」と呼ばれる洪水対策の堤防システムは幕府の基本方となる。 他に木津用水の開削にも関わる。 これにより広い範囲に水を送ることが可能となる。	愛知県 犬山市
89	西澤真蔵 1844年～1897年 滋賀県	西澤真蔵は、弘化元年に愛知県野々目村に生まれ、商人として各種の事業を手がけ大きな成功をおさめました。 その後、水不足に悩む愛知県の高岡地区や猿投地区(現在の豊田市)で進められていた枝下用水の開鑿工事にに関わり、全財産を投げ打ち、膨大な借金を背負い、人生をかけて枝下用水を完成させました。	愛知県 豊田市
90	浜島辰雄 1916年～2013年 愛知県豊明市	愛知用水は、水に苦しむ知多半島のため昭和32年から始まったプロジェクトです。御嶽山に牧尾ダムを造り、木曾川から水路を引いて知多半島を潤す、その後の高度経済成長の先駆けともなった大事業でした。 知多半島の農民としてその夢の用水の実現に命をかけてきたのが久野庄太郎翁と同士・浜島辰雄氏でした。	愛知県 知多半島
91	河村瑞賢 1618年～1699年 三重県会度郡南伊勢町	元和4年2月生まれ。江戸時代前期の商人で海運と治水の功労者。 漬物屋から土木建築業に転じ、明暦の江戸大火では材木の買い占めで利益をあげました。 鉦山や新田の開発、東廻航路・西廻航路の整備、淀川治水のための安治川開削などの事業を手がけ大貢献し旗本にとりたてられました。	三重県 淀川水系
92	西嶋八兵衛 1596年～1680年 静岡県	西嶋八兵衛は、遠州浜松で生まれ、水利、土木、経済、書道に優れ17歳の時に伊勢津藩主藤堂高虎に仕えました。 八兵衛は二代目藩主藤堂高次から命ぜられ領内を巡回、雲出井用水開削の大工事に着手しました。 雲出井用水路は、現在の津市、久居市の優良農地約800ヘクタールを灌漑する農業水利施設。	三重県 津市
93	恵荘上人 1778年～1849年 滋賀県高月町	高月町西野は北と西を山に囲まれた低地でよく洪水が起きていました。恵荘はこの洪水を何とかしようと西の山をくり抜いてびわ湖へ排水を流す事を考えていました。 そこで恵荘と住民は彦根藩から「隧道」を掘る許可をもらい、天保11年より工事ははじめました。 5年後の弘化2年に西野隧道が完成しました。	滋賀県 長浜市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
94	藤本太郎兵衛 不詳 滋賀県	大雨が降った際に周辺河川からの水が琵琶湖に集まり水害をおこす。 水害をなくすべく、琵琶湖の水位を下げるために瀬田川の川底を深くする工事を行うことになる。 治水工事は瀬田川の全長 14 キロメートルで行われた。 藤本太郎兵衛は親子 3 代に渡り私財を投じ尽力した。 天保の御救大凌と呼ばれる。	滋賀県 高島市
95	松本彦平 1856 年～ 1919 年 滋賀県高島市	土地が高台にあり、周囲の河川から田畑に水を引くこともできない状態であった、そのため貯水池を作る必要にせまられた。松本彦平の指示の下、淡海湖の工事は進められるが完成を見ずに亡くなる。 九年に及ぶ工事で淡海湖は完成し、水の確保ができるようになったため新田開発にもつながる	滋賀県 高島市
96	籠手田安定 1840 年～ 1899 年	県令籠手田安定は、明治 15 年に田川改修工事の施行を県会に提案したが、工事費が莫大であり受益範囲が限定的で下流に強い反対があることを理由に議会で否決された。 翌明治 16 年にも再提案したがまた同一理由で否決された。そこで県令は明治政府の許可を受ければ工事が出来るという規則を発動して工事を実施した。	滋賀県 長浜市
97	近藤勝由 1827 年～ 1901 年 京都府綾部市	洪水により天田井堰が大きな被害を受けました。 そこで勝由は天田井堰と綾部井堰を統合しようと考え、約 900 メートルの水路を掘り、二つの井堰の水路をつなぐ計画を立てました。 困難な工事だと農民から反対されましたが、勝由は私財を投げうって工事に取りかかりました。 これにより、綾部用水の基礎が築かれました。	京都府 綾部市
98	慈心上人(覚真) 1170 年～ 1243 年	瓶原大井手用水開削の祖。 大井手水路は、鎌倉時代中期の貞応元年、現在の京都府相楽郡加茂町瓶原の海住山寺の慈心上人が、和束郷石寺の和束川に水源を求め、川に井手枕という堰堤を設け、そこから、幅 1.81m、勾配 1250 分の 1、水深 0.3m、延長 6755m の水路を村人とともに完成させた。	京都府 加茂町
99	角倉了以 1554 年～ 1614 年 京都府京都市	朱印船貿易の開始とともに安南国との貿易を行い、山城(京都)の大堰川、高瀬川を私財を投じて開削した。 また江戸幕府の命令により富士川、天竜川、庄内川などの開削を行った。 地元京都では商人としてよりも琵琶湖疏水の設計者である田辺朔郎と共に「水運の父」として有名である。	京都府 京都市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
100	行基 668 年～ 750 年 堺市	行基集団を形成し、道場や寺院を 49 院、溜池 15 窪、溝と堀 9 筋、架橋 6 所、国家機関と朝廷が定めそれ以外の直接の民衆への仏教の布教活動を禁じた時代に、禁を破り畿内(近畿)を中心に民衆や豪族など階層を問わず困窮者のための布施屋 9 所等の設立など数々の社会事業を各地で成し遂げた。	大阪府
101	沖野忠雄 1851 年～ 1921 年 兵庫県豊岡市	かかわった改修工事は、港が 80、河川が 100 にも及び「治水の神様」と称された。 内務省直轄事業の基礎を築き、「内務省直轄事業の父」「明治河川改修の父」などと称された。 なかでも、近代日本の治水の歴史に燦然と輝くのが淀川改良工事であるといわれ、「新淀川の父」とも称される。	大阪府 大阪府
102	ジョージ・アーノルド・エッセル 1843 年～ 1939 年 オランダ レーワルデン	明治六年、30 歳のときに、日本政府に雇われて来日し日本の近代化のためインフラ整備を指導しました。 淀川水系の調査・設計を手始めに、鳥取県千代川、東京都江戸川、千葉県利根川、新潟県信濃川、山形県最上川、赤川などで改修工事の指導、設計に当たりました。 このほか坂井港のエッセル堤などの設計も行いました。	大阪府 大阪府
103	仁徳天皇 290 年～ 399 年	河内平野における水害を防ぎまた開発を行うため難波の堀江の開削と茨田堤(大阪府寝屋川市)の築造を行った。 これが日本最初の大規模土木事業だったとされる。 又、山背の栗隈県(京都府城陽市西北～久世郡久御山町)に灌漑用水を引かせた。そして、灌漑用水として感玖大溝を掘削し広大な田地を開拓した。	大阪府 大阪府
104	豊臣秀吉 1537 年～ 1598 年 愛知県名古屋	豊臣秀吉は織田信長の家臣として台頭し土木技術を巧みに活かした戦法、築城を得意とし様々な土木施設を手がけた人物です。 大阪城築城では周辺地域の新田開発と洪水防御のため淀川に太閤堤や文禄堤等を築き淀川の流路を固定、これ以外にも多くの治水事業等に携わり土木技術を飛躍的に発展・普及させました。	大阪府 枚方市
105	中甚平衛 1639 年～ 1730 年 大阪府東大阪市	「大阪の川の流れを変えた男」と呼ばれる。 50 年にもわたり大和川の付け替え工事を嘆願し続ける。 付け替え工事では指揮を任せられ、工事は長さ 14 キロメートルの新しい川を造ることになる。 この工事により川の水を海まで直接通すことが可能となり、水かさが少なくなり、水害を減らすことができた。	大阪府 東大阪市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
106	魚住完治 1828 年～ 1899 年	いなみ野台地は雨が少なく、度重なる干ばつが襲い農家は困窮していた。 私財を投じて山田川からの疏水を造るため測量を行ったが、地盤が悪く工事費が高むため 淡河川から取水することとし明治 21 年に着工し 3 年後に完成、710 ヘクタールが水田化された。工事では指導監督にあたり疏水完成に大きく貢献した。	兵庫県 稲美町
107	ヘンリー・S・パーマー 1838 年～ 1893 年 インド バンガロール	1883 年来日し神奈川県より横浜 上水道建設計画の依頼を受け多摩川取水計画と相模川取水計画の 2 案を県に提出して帰国。 1885 年に再来日し水道工事の全てを任せられると水源を相模川支流の道志川とし野毛山配水池に至る総延長 48 キロメートルの横浜水道建設を着工指揮にあたり日本初の近代水道を完成させました。	神奈川県 横浜市
108	市丸又四郎 不詳	加古川支流の荒井川にはさまれ、頻繁に洪水が起きていた。そのため市丸又四郎は堤防を造り荒井川の水害に苦しめられていた人々が救われた。 現在も高砂市美保里には市丸廟の額が掲げられたい市堂が弁天堂と同じ敷地に堂には市丸の事績を記した碑文と「恵光院浄慶」と記された墓碑が納められている。	兵庫県 高砂市
109	赤木正雄 1887 年～ 1972 年 兵庫県豊岡市	全国治水砂防協会の設立者。東京帝国大学農学部林学科砂防に学び、林学出身者ではじめて内務省に就職。 鬼怒川、信濃川、木津川、瀬田川、富士川、神通川、天竜川、六甲山など全国の砂防工事を指揮するなど、国内砂防技術の基礎を築いた。 日本での砂防の重要さをいち早く説いた人物で「砂防の父」といわれる。	兵庫県 豊岡市
110	長浜新六郎 不詳 兵庫県加古川市	国包出身の商人だった長浜新六郎は、加古川の水害に悩まされ続ける人々を見かね、私財を投じて洪水の際に避難できる山を天保 6 年 (1756 年) に完成させた。 その山は人の手で築かれたことから築山と呼ばれ、その頂上に地元の人々が感謝の気持ちと安全への祈りを込めて築山神社を建てたといわれている。	兵庫県 加古川市
111	中川吉造 不詳 奈良県大和高田市	明治 29 年、帝国大学工科大学土木工学科卒。 内務省技師となり地方土木工事の監督と利根川改修にあたり大正 15 年利根川の改修工事を完成させ、約 40 年間、利根川改修工事に尽力した、「利根川の主」と称される。 昭和 7 年から 11 年間に費やし、高田川の付け替え工事や、水道の敷設工事に助力を惜しまなかった。	奈良県 大和高田市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
112	大畑才蔵 1642 年～ 1720 年 和歌山県伊都郡	水を雨水や渓流水に頼る紀の川右岸一帯の農民たちは、紀の川の水を自分の水田に引くことができたらとの願いに工事に取り掛かりました。 地形が複雑で難しい工事を他にも完成させた才蔵が作った 24 キロメートルの藤崎井用水路や完成はできなかったものの 30 キロメートルの小田井用水路は現在も使われています。	和歌山県 橋本市
113	濱口梧陵 1820 年～ 1885 年 和歌山県有田郡	安政南海地震の津波が広村に襲来した後、梧陵は自身の田にあった藁に火をつけ高台の広八幡神社への避難路を示す明かりとし村人を誘導した。 村人の 9 割以上を救い、津波から命を救うには情報伝達の速さにが重要という教訓を残した。これをもとに作られた物語が『稲むらの火』として知られている。	和歌山県 有田郡
114	柏木浅右衛門 不詳～ 1834 年 和歌山県御坊市	浅右衛門は段々田んぼでの重労働や干ばつに悩み・飢饉に苦しむ人々の生活を見て成長した。 彼は東谷に溜め池をと一念発起し、私財一切を投げだし、労力総てを奉仕して池普請に情熱を傾けた。 はじめは 半信半疑の村人も彼の姿に励まされ一万有余の人々が、伊勢参宮講を結成して経費をととのえ、大事業に着手した。	和歌山県 御坊市
115	栗本新兵衛 不詳 和歌山県御坊市	天保の大飢饉のために多くの人が飢え死にすることになった。栗本新兵衛は貧しい人を救うために日高川沿岸を埋め立てる工事を私財を投げに行った。 人々はこの工事により仕事をすることもできた。また、これにより新田が開発できるようになり、新しくできた新田は「茶新新田」と呼ばれる。	和歌山県 御坊市
116	鈴木立庵 不詳 和歌山県御坊市	鈴木立庵は段々田んぼでの重労働や干ばつに悩み・飢饉に苦しむ人々の生活を見て成長した。 彼は東谷に溜め池をと一念発起し、私財一切を投げだし、労力総てを奉仕して池普請に情熱を傾けた。 はじめは 半信半疑の村人も彼の姿に励まされ 1 万有余の人々が、伊勢参宮講を結成して経費をととのえ、大事業に着手した。	和歌山県 御坊市
117	平井正次 1580 年～ 1657 年 和歌山県御坊市	1600 年初めの土木技術では、日高川近辺の低い土地は畑地が多く水田化されておらず、河川が荒れればたちまち氾濫するため流域は耕作人不明の荒地となっていた。 正次は川辺町若野本で日高川を堰き止め、260 町歩を灌漑、水門より水末に至る溝渠延長約 1 里 20 町の若野井堰を設計し工事を指揮し完成した。	和歌山県 御坊市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
118	亀井 茲矩 1557 年～ 1612 年 島根県松江市	茲矩は慶長 7 年から大井手水路の開設に取組み、千代川の川筋に取水堰（智頭川と八東川の合流点の上約 1km）を設けて水源とし、水路は河原から江津・秋里・湖山に及ぶ約 20km 余で千代川の西側には灌漑面積は約千町歩に及びます。 施工には 7 年の歳月を要したとされています。	鳥取県 鳥取市
119	大槻七兵衛 1621 年～ 1689 年 島根県出雲市	海から吹き付ける強い西風に加え、水に恵まれず作物ができないことに心を痛め、私財を投げ出してでもこの地の開拓を成しとげようと決意。 用水路を通す砂地の土地は水が地面に吸い込まれるため、川床にむしろを敷き粘土で固め水が漏れないようにした。こうして幅約 6 メートル、全長約 8 キロメートルの用水路ができあがった。	島根県 出雲市
120	周藤彌兵衛 1650 年～ 1752 年 島根県松江市	宝栄 3 年、56 歳にして一念発起した周藤彌兵衛は日吉村の剣山を切り抜き、以来 42 年間ノミと槌で剣山の硬い岩を切り開くという苦業に立ち向かった。 97 歳にして「日吉切通し」を完成させ、意宇川の流れを変え洪水を繰り返す暴れ川から村を救った。 宝暦 2 年、103 歳で大往生をとげた。	島根県 松江市
121	ト蔵孫三郎 1696 年～ 1721 年 島根県松江市	ト蔵孫三郎は、江戸時代中期、仁多郡から荒島村に移住し、庄屋の協力を取り付けて能義郡日白池でト蔵新田の開発を行った。沼地であった日白池に 16 年の歳月をかけて五ヘクタールの水田に造成、かんなし工法を使った土砂運搬方法を用いて、優れた土木技術と才能をふるって新田開発を行い生涯を全うした。	島根県 安来市
122	清原太兵衛 1712 年～ 1788 年 島根県松江市	度重なる洪水に見舞われていた松江城下と宍道湖周辺の水害対策に湖水を日本海に流し被害を緩和しようと考え、佐陀川を開削。 天明 5 年から全長約 12km の水路を掘りすすめた結果、宍道湖の水位は 1m 下がりに 200 ヘクタールの新田を開発。川沿いでは米が増産、海運業も盛んになり藩の財政事情は好転した。	島根県 松江市
123	ウィリアム・K・バルトン 1856 年～ 1899 年 スコットランド エディンバラ	日本の衛生工学・上下水道の父。松江市他 23 都市の近代水道を完成させました。 バルトンの設計は、実地工事の段階では大幅に変更せざるを得ないものではありませんでしたが、帝都上下水道の基本計画となり、東京、神戸、福岡、岡山などの上下水道の基本調査を担当しました。凌雲閣の基本設計者としても知られています。	島根県 松江市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
124	津田永忠 1640 年～ 1707 年 岡山県岡山市	岡山の城下を流れる旭川は川が浅くたびたび洪水の被害が発生した。また米の取れる量も現在に比べ少なく日照りや洪水により籾もたびたび起こっていた。 旭川の洪水を防ぐため新たな川を掘ることを考案し 1669 年に蕃山の弟子の津田永忠により川の掘削が行われ現在の百間川ができ上がった。	岡山県 岡山市
125	石川善右衛門 1607 年～ 1670 年 岡山県岡山市	江戸前期の水利土木家。承応 3(1654) 年 7 月備前各地に大水害が発生、藩主池田光政の命を受け被害が激しかった児島郡の救済にあたった。 各地を視察し、旱水害の地児島郡に福林池、森池をはじめ、郡内に 300 余の池を造成、旱害の憂いを除いた。文化 3 年) 年郡民にて瑜伽山に頌徳の記念碑が建てられた。	岡山県 岡山市
126	ローウェンホルスト・ムルデル 1848 年～ 1901 年 オランダ ライデン	児島湾の干拓調査にあたり、ムルデルはこの地方の伐採で荒れ果てた山々を見て驚きました。 このままでは、土砂流出、洪水の害は治まらず、古田の湿田化も止められないとし「児島湾開墾復命書」のなかで、干拓工事の手順や工法だけでなく、伐採の禁止と河川上流部での砂防の必要性を強く説きました。	岡山県 岡山市
127	河原善右衛門 1637 年～ 1685 年 岡山県久米南町	江戸時代の寛永 8 年 (1631 年) に、現在の久米南町下弓削に生まれ、長じて大庄屋となり貧困に苦しむ農民を何とか救済したいと発念。 干天の水不足、洪水など、天候に翻弄される郷土の農業改革を目指して、河川の改修、田畑の開墾・灌漑施設づくりなど、数々の大事業に私財を投じて成し遂げた。	岡山県 久米南町
128	咽声忠左衛門 不詳	江戸時代、安芸高田市八千代町上・中土師地区は、川よりも高いため、川の水を田畑に利用できず、しばしば水不足で米を収穫できず農民たちは困っていた。 忠左衛門は上流からの水を引く八キロメートルもの用水路を掘り続け、約 18.6 ヘクタールの田畑に水を送る矢櫃井堰を切り開いた。	広島県 安芸高田市
129	山口玄洞 1863 年～ 1937 年 広島県尾道市	関西や尾道の公共事業や慈善事業、寺社に多くの寄付をした。 大正から昭和における寄付金王とまで言われている。 記録に残る主なものだけでも 147 件におよぶ寄付・寄進をしている。 初期は特に教育関係、ついで病院・水道などの社会事業関係、そして災害の義捐関係なども目立った。	広島県 尾道市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
130	桑原卯之助 1723年～1783年 広島県広島市	江戸時代初期、八木・緑井・長東など太田川右岸地域は農業用水が乏しかったため稲作に適さず、そば・大豆・粟などの雑穀に頼って生活していた。 卯之助は、太田川の水を引き入れる用水路の掘削に取り掛かり、調査を重ねて八木の十歩一を取水口に決め、1768年に定用水が完成した。	広島県 広島市
131	水野勝成 1564年～1651年	福山藩初代藩主。芦田川デルタ干拓による城下町建設をはじめ、綿花栽培の奨励による繊維産業育成や上水道の敷設、戦国時代以来荒れていた神社仏閣の修理・再建など領内の治政に力を尽くした。 城下町建設とともに、上水道網(福山旧水道)を整備。また、城下町を氾濫から守るため、芦田川の治水・灌漑・利水事業も行った。	広島県 福山市
132	岩崎想左衛門 1598年～1662年	鹿野台地は周辺の錦川や渋川よりも高台にあるため村人たちは毎日遠くへ水汲みに行っていた。 これを見た想左衛門重友は、なんとかこの台地に水を引こうと考えた。 そこで、藩の許可を受けた想左衛門重友は(慶安4年)私財を投じて村人と工事を始めた。工事を始めて4年後、村人と協力し約90mのトンネルが完成した。	広島県 周南市
133	井内恭太郎 1854年～1934年 徳島県阿波市	江戸時代から吉野川流域の農地ではたくさんの藍が作られていた。明治30年代以降、化学染料の輸入等により藍は急速に衰退。 藍にかわりに米作りを考えるも水の確保が困難だった。井内は、吉野川から農地まで水を引く用水路の建設を考え、7年をかけ吉野川の南北に大きな用水路を同時に完成させた。	徳島県 阿波市
134	西嶋八兵衛 1596年～1680年 静岡県浜松市	讃岐平野は降雨が極めて少なく、農民たちは水の確保に苦勞してきた。日照りが続くと水不足に困窮し、大雨になると鉄砲水や洪水が民家や田畑を押し流し被害を出すという讃岐において、治水利水事業は急を要していた。八兵衛は干ばつを救うため讃岐へ派遣され、農業用水確保のため、讃岐のため池の築造・改修に活躍した。	香川県 高松市
135	久米通賢 1780年～1841年 香川県東かがわ市	財政難に陥っていた高松藩の第九代藩主松平頼恕は、通賢の才能を見込み財政再建を頼った。 通賢は阿野郡坂出の浜に新たな塩田開発を進言。高松藩はこの案を採用し通賢は塩田開発の陣頭指揮を執るだけでなく、自ら率先して作業に参加した。藩の財政難により資金が滞ったため、私財を投入し工事を継続させた。	香川県 東かがわ市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
136	藤川三溪 1817年～1889年 香川県高松市	讃岐の国山田郡三谷村(高松市三谷町)に生まれ、幕末から明治時代の医師であり、水産開発者として功績を残した。 維新後は捕鯨の事業化を計画し、開洋社を設立。奥羽征討軍監察使として功を立て、明治14年に公務を退職した。また東京に大日本水産学校、大阪に大阪水産学校を創立するなど、水産事業に生涯を捧げた。	香川県 高松市
137	加地茂治郎 1869年～1940年 香川県観音寺市	大正13年、香川県は厳しい日照りに襲われた。元々雨が少なく、昔からため池をつくって作物を作っていたが、日照りで池は枯れ、農民たちは飲み水にも困るほどだった。農民の訴えに茂治郎は柞田川をせき止めるダム建設を計画。国や県議会に費用負担を交渉し、貧しい農民の収入となるよう工事は地元の農民たちで行った。	香川県 観音寺市
138	空海 774年～835年 讃岐国多度郡屏風浦	僧侶としてだけでなく、建築や治水など実利の面でも高い能力を示した。その中で最も大きな功績が讃岐の国にある満濃池。この池は国内最大級のため池で、当時からの地域では農業用水に活用されていたが、大雨などにより度々決壊し甚大な被害を出していた。 空海はこの池にアーチ状の堤防を築き氾濫を防いだ。	香川県 善通寺市
139	山之内彦左衛門 1614年～1698年 兵庫県姫路市	久万盆地を流れる久万川は深い谷のため、農業用水を引くため川の上流に堰をつくり、そこから数十もの「掛樋」を連ねて水を引いていた。 台風や大雨の洪水によって、掛樋はたびたび流されその苦勞は大変なものだった。この苦しみから人々を救うため、掛樋の代わりに岩山を切り開き用水路を築いた。	愛媛県 久万高原町
140	足立重信 生年不詳～1625年 岐阜県	松山城主 加藤嘉明に仕え、藩きつての土木技術者だった足立重信は、当時あちこちで氾濫していた伊予川(重信川)の河道改修を行い、荒廃地だった地域に五十ヘクタールの新田を拓いた。 当時城を作る勝山の南麓を抜け、洪水を繰り返す暴れ川だった石手川(いしてがわ)を南(現在の流路)へ付け替えさせた。	愛媛県 松山市
141	野中兼山 1615年～1663年 兵庫県姫路市	八田堰、山田堰などの堰及び用水路の建設による新田開発や日本最初の掘り込み港湾「手結内港」など多くの新田開発や港湾設備建設を行い、「土木神の化身」と呼ばれるほどの土木工事を行った。 四万十川支流に分水目的の井堰を設け、四ヶ村を灌漑するために水車を設置し水田に水を汲み上げる工事も行った。	高知県 高知市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
142	古賀百工 1718年～1798年 福岡県朝倉市	日照りが続くとも稲も立ち枯れ、作物も取れず何度も飢饉に陥る地域を救うため筑後川からの豊富な水を引くための用水工事が行われ、翌年には水田を潤す堀川用水が完成した。その後拡張を藩に願い出し認められ筑後川本流山田堰の大改修を実現。 根本的に水害干害から住民を守り農民に大きな恩恵を与えた。	福岡県朝倉市
143	高山六右衛門 生年不詳～1734年 福岡県筑後市	大干ばつによってたびたび農作物が全滅していた久留米の水不足を解消するため、筑後川北岸の床島に堰を築くことを久留米藩に請願するとともに郡内の庄屋からの協力も得、久留米藩土草野又六の指揮のもとで工事に着工し、正徳四年に床島堰を完成させた。 床島堰によって田畑約二千ヘクタールを潤した。	福岡県久留米市
144	田中吉政 1548年～1609年 滋賀県高島市	江戸時代の筑後国主。筑後川沿岸住民は洪水により荒野になってしまうのが悩みだった。 筑後川河畔にある葦野を開拓して耕地の拡張を命じ、自らも海岸埋立を企画し、汐土居の築堤に着手した。また、筑後川の流れを深くして舟運の便をはかった。さらに国内各所の城壁を撤去し田畑にしたといわれている。	福岡県柳川市
145	高橋庄蔵 1836年～1891年 福岡県豊前市	天保7年上尾郡路土村（現在の豊前市黒土）で代々庄屋を務める家系に生まれた。 明治6年からは上毛・下毛二郡の大区長をつとめた。 明治11年に灌漑用の矢方池の築造を計画した庄蔵は、10年の歳月をかけて水利土工会を創立。 私財を投じ明治21年に着工したが3年後に56歳で急死、池はその10年後に完成した。	福岡県豊前市
146	長卯平 1759年～1837年 福岡県筑前町	江戸時代に戸原村の大庄屋を務めた長卯平は、水利に恵まれない郡の中央部に山を掘り抜く灌漑水路、新大間池仕掛水路を作ること計画し、同地出身の博多の豪商からの援助をうけるだけでなく、私財も投じて七年で完成させた。 地域に大きく貢献した長卯平の偉業は今も生活に恩恵を与え続けている。	福岡県筑前町
147	草野又六 1678年～1731年 福岡県久留米市	土木工事の技術にすぐれ、久留米藩にとりたてられる。筑後川北岸地区の三井郡一帯の土地は川面より高く水田として利用されず、わずかな田畑もたびたび干害に襲われ、農民は飢饉に迫られる状態であった。 床島堰と恵利堰の建設工事を指揮して正徳4年完成させ新田約400haをひらいた。	福岡県大刀洗町

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
148	田代弥三左衛門 1616年～1687年 福岡県うきは市	筑後生葉郡吉井村の大庄屋。 郡東部の荒地に筑後川の水をひく用水路の開削を計画し、寛文12年久留米藩の援助をえて工事を開始。 久留米藩より借りた33貫目を使い果たし9貫目ほどに手を出し、思うほど水量が無かった為更に数十貫目の私財を投げうつなどして延宝4年袋野堰の通水に成功した。	福岡県うきは市
149	成富茂安 1560年～1634年 佐賀県佐賀市	現在の佐賀市鍋島町に生まれた成富茂安は、堤防、井樋、用水路、ため池など100数カ所の事業に携わり、利水開発や洪水防止事業を進め、治水の神様と呼ばれた。 佐賀平野の嘉瀬川は、洪水や水不足に苦しんでいた。そこで石井堰という施設をつくり洪水を防ぎ、田畑に必要な水量を確保して農作物の収穫を安定させた。	佐賀県佐賀市
150	深澤儀太夫 1584年～1663年 長崎県佐佐見町	当時、九州のまわりの海では鯨が沢山捕れ、儀太夫は捕鯨で大金持ちとなった。そして、捕鯨をして儲けた金で新田や溜池を造って寄付していた。 中でも野岳村は雨が降ると川が溢れ、日照りにかかると水が無くなり作物の被害が頻繁に起こっていた。これを防ため大きな堤を作ろうと考え野岳湖をつくり多くの村人を救った。	長崎県佐佐見町
151	倉田次郎右衛門 生年不詳～1703年 長崎県長崎市	生活用水や非常時の消火用水の不足に倉田次郎右衛門が私財を投じて水道の敷設工事を行った。 寛文3年工事を決意し、寛文7年銭屋川を水源とする水道の敷設工事に着手、延宝元年水道工事完成。倉田次郎右衛門は200年余りにわたって長崎の住民に水を供給し続け長崎の生活を支えた。	長崎県長崎市
152	加藤清正 1562年～1611年 愛知県名古屋	秀吉にとりたてられ26歳の若さで肥後北半国の領主となつた清正は、当時暴れ川と呼ばれた白川は、何度も熊本城下を襲っていた。 清正は川の上流から河口まで見回り白川の洪水により田畑が大きな被害を受けないよう、堀替えや堰・井出や石柵を作るなど様々な工夫をして田畑を豊かにし、今の熊本の礎を築いた。	熊本県熊本市
153	布田惟暉 1801年～1873年 熊本県	肥後国矢部に誕生し、養父布田太郎右衛門の土木治水事業の影響を受け、嘉永七年、阿蘇の外輪山南側の五老ヶ滝川の谷に通潤橋（石造アーチ型の通水橋で国の重要文化財）を完成させるなど、橋・道路を建設し矢部の開発に努めた。それにより天保の大飢饉から農民を救った。 1952年には、熊本県近代功労者となった。	熊本県山都町

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
154	千々波敬右衛門 不詳 熊本県熊本市	江戸時代後期の治水家。熊本県飽田郡に生まれた。水の確保が十分に行えず、たびたび水不足で村人が困っているのを見て、私財を投じて白川下流に大石堰をつくり、掘割をもうけて用水路を築く工事に着手した。水路が完成する前に工事途中で病死したが、明治4年に用水路は完成し村人に恵みを与えた。	熊本県 熊本市
155	富田茂七 1760年～1837年 熊本県上益城町	かつて砥川村は、田地に使用する水の確保が困難な立地条件で当時の庄屋であった富田茂七は享和元年赤井の素麵滝から砥川へ水を引くため船野山の山麓をめぐる約3350mの水道を開削し荒田を良田へと変えた。この功績を称え大正14年に富田茂七彰徳碑が建立され、疎水式を行った3月19日には水神祭が開催されている。	熊本県 上益城町
156	櫻井又吉 1758年～1830年 熊本県玉名市	江戸時代中期 - 後期の治水家。熊本県玉名郡弥富村に生まれた櫻井又吉は、若くして役人の道に進み、永徳寺村の庄屋など玉名郡代のもと要職に就いた。優れた土木技術をもとに村々のために働き、自費で堤防強化を行うなどして村人の生活を守った。毎年九月に又吉さんまつりを行い遺徳を偲んでいる。	熊本県 玉名市
157	広瀬久兵衛 1790年～1871年 大分県日田市	1816年頃、豊後日田地方に天災・地変がつづき、大飢饉が襲った。収穫不良をなんとかしようと村人の協力を得て小ヶ瀬井路を完成した。日田の土木工事の後、県北地域の干拓事業を開始、周防灘沿岸の14新田と宇佐の広瀬井堰の工事にも関係した久兵衛は、毎日雨の日も風の日も土工と一緒に働いたといわれている。	大分県 日田市
158	南一郎平 1836年～1919年 大分県宇佐市	幕末から明治にかけて大分県の広瀬井手、高森水路を開発。その後明治政府の水利開墾事業に従事し全国の水土木工事にあつた。特に日本三大疎水とされる安積疎水、琵琶湖疎水、那須疎水の開発に取り組んでいる。疎水工事のなかで特にトンネル工事で経験を積みこの経験を生かして後にトンネル工事専門会社を創設した	大分県 宇佐市
159	内海作兵衛 1624年～1706年 大分県	寛永元年生まれ。豊前中津藩の木工棟梁。承応3年藩命により中津城下に石の樋をうめ、上水道を敷設した。また下毛郡樋田村の山国川から取水する荒瀬井路の建設を手がける。荒瀬井路の灌漑面積は下毛原田台地28ヵ村、1000ヘクタール余に及び、莫大な費用と年月をかけた大分を代表する用水路である。	大分県 中津市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
160	藤江監物 1687～1731年 宮崎県延岡市	江戸時代の中頃、農民たちは水が少なく貧しい暮らしをしていた。延岡藩家老藤江監物は、1724年、水田へ水を引くために五ヶ瀬川に井堰を造るよう命じた。1731年に、家臣の策略により親子4人が投獄され、その4ヶ月後に亡くなったが、亡くなってから3年後に岩熊井堰が完成。農民たちは水不足から救われた。	宮崎県 延岡市
161	坂元源兵衛 1840年～1918年 宮崎県都城市	農業用水が無く水田がない関之尾の人々から懇願され、庄内川の関之尾滝上流から水を引くため、ノミと槌だけで岩を掘り抜き約10年の苦難の末、1896年に北前用水路を完成させた。この用水路は、自然の落差を利用した取水口や落差工(女滝)、余水吐(男滝)など坂本の高い技術力により完成した。	宮崎県 都城市
162	宮田盛儀 1876年～1963年 宮崎県都城市	用水路開発による村勢の振興に意を注ぎ1905年沖水川から水路を引き長田地区に7町歩の水田を開いた。当時の農村では水田を増やすことが最も重要であった。次いで天木野地区に用水路を開発し20町歩の水田をさらに轟木地区に6町歩の水田を開き、水田稲作が可能となり耕地の生産力が高まり村の生活も豊かになった。	宮崎県 三股町
163	田丸貞重 1875年～1932年 宮崎県小林市	昭和初期に野尻町で行われた開田事業があります。須木から水を引いた漆野原開田事業と小林から水を引いた野尻原開田事業。これらの工事は水不足に苦しんでいた野尻の農業に変革をもたらした。田丸貞重は三ヶ野山から東麓にかかる野尻原開田事業に、私財を投げ打って生涯を捧げました。	宮崎県 小林市
164	黒木七左衛門 1796年～1873年 宮城県清武町	寛政8年、日向(ひゅうが)船引村(現在の宮城県清武町)の庄屋に生まれた。清武川支流の水路改修につとめ、新田を開発した江戸時代後期の治水家で、正手(しょうで)の水路を整備して洪水を防いだ。清武川の清流を引いてつくられたせせらぎはホテルの名所として知られている。	宮崎県 宮崎市
165	松井儀長 1570年～1657年 宮崎県宮崎市	満潮時に大淀川が逆流するのを見て清武川の方が水位が高いことに気づき清武川から水を引くことを考えた。当時としては大事業であったこの事業は寛永16年12月に普請にとりかかり19年間の工事で全長は10kmにも及んだ。この事業によって農民たちは干ばつから救われただけでなく新開田を促すものとなった。	宮崎県 宮崎市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
166	児玉久右衛門 1688年～1761年 宮崎県西都市	穂北郷は水が乏しい地域で、収穫できる米は年貢の一分程度だった。児玉久右衛門は藩から許可を得て、1720年に水路と井堰造りに着手。工事への妨害、洪水による堰の流失などの問題があったが、1722年に第1期工事が完成、1750年に第2期工事が完成し、水田約80hr灌漑。後に水田は約600hrに達した。	宮崎県西都市
167	野井倉甚兵衛 1874年～1960年 鹿児島県有明町	20歳頃、干ばつで作物が枯れ、台風で深刻な被害を受けたことから、シラス台地に水を引く事を決意。以来、農林省への陳情や耕地整理組合の設立を行い、戦時体制下でも水路開削や開田工事を続けた。敗戦後、莫大な事業費用にGHQは難色を示したが、陳情を続け事業を続行、620haのシラス台地を潤す工事を完成させた。	鹿児島県有明町
168	馬場藤吉 1875年～1922年	蓬原開田に命をかけて働かれた馬場藤吉は28歳の時、蓬原に帰って馬場病院を開く。荒れた大地に水を引き生活に苦しむ村民を助けたいと明治45年に西志布志・大崎連合耕地整理組合を作り組合長になった。そして自分の財産を全て売って水を引く権利を譲り受け、44歳の時、430haの開田に成功した。	鹿児島県志布志市
169	蔡温 1682年～1761年 沖縄県那覇市	田と畑の転換を禁じ、また傾斜地の開墾を制限する一方で、農民に耕地の永久耕作権を与えて農地の地力保護をはかり、農業用水路の整備を進めた。また、農民を組合に所属させ、納税の連帯責任を負わせることによって農民同士の協力を促すとともに相互監視による税収の安定化をはかった。	沖縄県那覇市
170	八田與一 1886年～1942年 石川県河北郡	台湾の嘉南平野は灌漑設備が不十分だったため、十五万ヘクタール程の田畑は干ばつに見舞われていた。そこで與一は官田溪の水を堰き止め、さらに隧道を建設し曾文溪から水を引き込むダム建設を計画し認められた。事業は受益者が官田溪埤圳組合を結成し施行しこの組合付き技師となり完成に至るまで工事を指揮した。	台湾台南市
171	西郷菊次郎 1861年～1928年 鹿児島県奄美大島	宜蘭市を流れる宜蘭川は人々の生活を潤す水源だったが、毎年のように氾濫し市民生活を脅かしていた。そこで菊次郎は巨費を投じて17ヶ月間かけて宜蘭川に堤防を作った。お陰で宜蘭の市民は水害から守られるようになった。1.7キロにおよぶ宜蘭川堤防は現在も「西郷堤防」と呼ばれ、業績を称える石碑も残されている。	台湾宜蘭市

	人物名 / 生没年 / 出生地	功績	功績地
172	中村哲 1946年～2019年 福岡県福岡市	福岡県福岡市出身の脳神経内科を専門とする医師で、パキスタンやアフガニスタンで医療活動に従事。2010年、水があれば多くの病気と帰還難民問題を解決できるとして、クナール川からガンベリー砂漠まで総延長25kmを超える用水路が完成し、約10万人の農民が暮らしていける基盤を作る。	アフガニスタン ガンベリー砂漠

周藤彌兵衛翁 (一六五〇―一七五二)

八雲町の山麓から流れ出る意宇川は、江戸時代初期には急屈折と蛇行を繰り返す川でした。そのため、大雨の時はたびたび堤防が決壊し、地域全体が泥海化する水害が多発しました。その惨状を憂え、慶安三年(一六五〇)から三年間、新たに直進する川筋に変える「川違え」と「切り通し」の工事に取り組んだのが、日吉村(現在の松江市八雲町日吉)の豪農周藤彌兵衛家初代家正でした。その祖父の遺志を継いだ三代彌兵衛良利は、宝永三年(一七〇六)五十六歳の時から、延享四年(一七四七)九十七歳に至る実に四十二年もの年月をかけ、工事をやりとげました。巨額の私財を投じ、百歳近くまで孤軍奮闘の努力をした良利の人間像は、今に至るまで語り継がれています。

さらに、明和三年(一七六六)に六代兵蔵の追加工事が行われ、その後、水害は激減し、旧河道の地内には広い田畑も生まれ、地域の繁栄と人々の幸せにつながりました。良利は宝暦二年(一七五二)百二歳の天寿を全うしました。

この像は、中国山東省棗荘市で制作されました。棗荘市は、一九三八年、島根、鳥取、広島、岡山出身者で編成された松江六十三連隊を含む日本軍と、米・英の援助を受けた中国軍が戦った「台兒荘大戦」で、双方に甚大な被害が出た地です。

日中国交正常化三十周年の二〇〇二年、棗荘市で孔子、孟子、周藤翁、清原翁の銅像を制作、孔子・孟子の像は鳥取県に寄贈して、日本最大の中国庭園「燕趙園」に建立されました。

「竹島の日」制定以降、北東アジアは戦後最も難しい状況になっています。

この度、八雲から北東アジア、そして世界の恒久平和を生み出すことを念じ、翁の大銅像を、戦地に赴く若者を見送った御陵の前に建立いたしました。

「歴史に盲目的な人間は、現在に対しても盲目である」 (アイゼンハッカー)
 「理念なき経済は犯罪、経済なき理念は戯言、一家を廃して万家を興す」 (二宮尊徳翁)
 「青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ」 (サミエル・ウルマン)
 優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、安易を振り捨て、冒険心、こころを語る様相を青春と言うのだ」

寄贈 小松昭夫
 意匠 高田勲
 制作 劉成啓
 建立 周藤彌兵衛顕彰会



やくも水神関連記事



やくも水神
新聞・雑誌アーカイブス

過去に掲載された新聞記事すべてを
ご覧いただけます。



2021年10月6日
日本経済新聞
水管理装置、水没しにくく
全国自治体にPR
小型で安価、手軽さも武器



2018年12月12日
日本水道新聞
福島県南会津町
IoTによる効率的監視・管理
「クラウドが組織活性化の礎に」

その他関連記事



2022年1月25日
山陰経済ウィークリー
さんいん事業物語
「人間自然科学研究所」



2022年1月11日
山陰経済ウィークリー
さんいん事業物語
「新事業への挑戦」



2021年5月1日
さんいんキラリ別冊
なかじまさえインタビュー



小松電機産業
人間自然科学研究所パンフレット
(きらりベース)



2021年10月22日
日経産業新聞
上下水道、クラウドで管理
小松電機産業、災害対策に力



2020年12月1日
月報はつめい
中国地方発表明彰式
中国経済産業局長賞を受賞して
小松電機産業株式会社
代表取締役 小松昭夫



2017年9月22日
日本水道新聞
霧島市長×小松昭夫 トップ対談
鹿児島県霧島市・旧1市6町
120カ所の施設監視を同時実現
“やくも水神”が地域に大きく貢献



2022年1月18日
山陰経済ウィークリー
さんいん事業物語
「やくも水神」



2022年1月1日
山陰経済ウィークリー
さんいん事業物語
「事業者の資質」



2021年3月12日
さんいんキラリ 2021 49号
小松昭夫インタビュー



下水道事業団主催 欧州下水道視察参加報告
2002年7月9日(火)～7月18日(木)
メンバー：佐藤、木次、川中 全22ページ



おはようサンデー 水の偉人関連放送



2022年5月29日
◆ムーンルームから生放送-104
衣服の自給率、着物の歴史、東京キモノショー
なかじまさえさんのワークショップ
二宮尊徳翁の言葉
6月2日(木)広島からズットナー銅像5体世界同時
建立プロジェクトを発表



2021年7月11日
◆ムーンルームから生放送-61
7月7日の島根豪雨災害の様子
全国世界の水の偉人172人顕彰碑建立プロジェクト
TOKYO MERに happygate 門番が登場



2021年6月13日
◆太陽ホールから生放送-57
ゲスト：小説周藤彌兵衛著者/歴史研究家
交易場修さん
6月5日放きを温ね 新しきを知る Zoom シンポジウム
交易場修さんゲスト出演
さんいんキラリ感想



2020年11月29日
◆ムーンルームから生放送-29
嫁ヶ島が国の登録記念物へ
嫁ヶ島万灯会、全国世界水の偉人の紹介
継体天皇と九頭竜川事業、中国経済産業局長賞受賞
について
岡倉天心について
しみみアーティストなかじまさえさんの紹介



2020年10月4日
◆ムーンルームから生放送-22
オープンマインド中秋の沈む太陽昇る名月クルージ
ング
ゆう科学通信の紹介
漫画大楯七兵衛を日本語と韓国語で朗読
太陽の國水の都緑の街の紹介



2020年9月20日
◆ムーンルームから生放送-20
小室孝太郎さんの紹介
漫画周藤彌兵衛の朗読
韓国語版の漫画を制作した背景
中海宍道湖園、連結汽水湖の新事業について



2022年6月12日
◆ムーンルームから生放送-106
ベルタ・フォン・ズットナーの人生を振り返る
オランダ・ハーグの平和宮100周年を記念してロレマ
氏によって制作されたズットナー像
その後4体のズットナー像がオランダと日本で制作
ロレマ氏のガザ地区の子供たちへの芸術支援
宍道湖の大和ジミの貝殻を活用したしじみアート



2022年6月5日
◆太陽ホールから生放送-105
しじみアート、キルト、わいわいおしゃべりしながら
の手仕事
メカニカルアートは、未来を拓くヒント
柳澤時子先生島根県立美術館でキルト展示会
自然環境・社会環境の話



2021年3月28日
◆太陽ホールから生放送-46
ゲスト：イラストレーター・しじみアーティスト
なかじまさえさん
しじみアート作品制作の背景・きっかけ・プロセス
ウィリアム・K・バルトン/銅像建立について
3月30日バルトン銅像建立リモート除幕式の様子



2020年12月6日
◆ムーンルームから生放送-30
中村哲さんのアフガニスタンでの功績
全国世界の水の偉人に172人目に登録
治水の偉人周藤彌兵衛翁の紹介
太陽の國水の都緑の街 CD、朝鮮半島と
日本列島の使命の感想



2020年10月25日
◆ムーンルームから生放送-25
周藤彌兵衛翁を紹介
朝鮮半島と日本列島の使命を紹介
ベルタ・フォン・ズットナー像5体を5カ国に建立予定
広島市の被爆石とイップ帯子さんの紹介
国民国連について



2020年9月27日
◆ムーンルームから生放送-21
漫画清原太兵衛の朗読
世界のフィランソロピスト20人に選ばれ、ベルタ・フォン
・ズットナーの銅像の除幕式を紹介
オープンマインド朝日ツアーの紹介



2020年9月13日
◆太陽ホールから生放送-19
由志園のイルミネーションを紹介
悠久の河の巻頭言を朗読
岡倉天心国際賞受賞・九頭竜川にやくも水神が採用・
周藤彌兵衛翁像の紹介
水の偉人覚醒顕彰祭の紹介
大楯七兵衛の紹介

破滅に至ることを『空の野蛮化』で警告、欧米を中心に平和活動を展開し、ノーベルに平和賞創設を進言、女性初のノーベル平和賞（五番目）を受賞したベルタ・フォン・ズットナー女史。この志を現代に蘇らせることが、私たちに求められています。

アンドリュー・カーネギーの寄付によりオランダ・ハーグ市に建設された「平和宮」（国際司法裁判所）百周年を記念して、二〇一三年、イングリッド・ロレマさん制作のズットナー女史の彫刻像が建立されました。その除幕式に参列し、ロレマさんのお人柄と、深遠な念いの伝わる像に魅了されました。関係者の方々の協力を得て、本日、ズットナー女史が亡くなったこの地で、その二号像を没後百年を記念して披露させていただきました。この街で展示された後、日本に移し、これまでズットナー女史を知らない日本人に広く紹介させていただきます。

今回の展示をきっかけに、強く平和を希求する人々によって、ズットナー像が世界各地に次々と建立され、ズットナーの志が蘇り、平和活動の資金が生まれ、確かな平和への流れが始まることを願っています。

私が生まれ育ち、四十二年前に創業した会社の所在地でもある、日本国島根県は、核の脅威が迫る朝鮮半島の対岸に位置し、日本最大の原子力発電所があります。島根県は、二〇〇五年に韓国と日本の中間に位置する竹島（韓国名独島）に対し、領土権の早期確立を目指した運動を推進する目的で「竹島の日」を制定しましたが、

このことが今日の東アジアの海・島をめぐる紛争の引き金になりました。
一九〇七年、第二回万国平和会議に大韓帝国使者として派遣された李儁（リジュン）烈士死去、一九一〇年日本の韓国併合、一九一四年ベルタ・フォン・ズットナー死去、第一次世界大戦勃発。私はこれらの経緯と現在の世界情勢を日本で受け止め、二〇一四年六月十七日、オーストリア・ウィーンから、構想と提言を発表いたします。

洪水を繰り返す川の流れを変え、村人を救い、百二歳で大往生されました。

ズットナー女史と同様に志を貫いた周藤翁の生涯を描いた小説『悠久の河』を日本水道新聞に二〇一四年七月から連載し、その後、日英韓中露の五か国語で出版を予定しています。また、ズットナー像と同時期に、中国山東省（一九三七年国共合作の地）で翁の大銅像を制作、八月一日「水の日」に、八雲町に建立します。

ギリシャ生まれのラフカディオ・ハーンが、明治時代、初めて欧米に日本文化を紹介した『知られざる日本の面影』は、彼が島根県松江市に住んだ時の体験を元にして書いた作品です。

そして今、小説『悠久の河』が生まれたこの地域を「和の文化」創造の原点に、情報通信技術（ICT）を用いて「世界の水と平和」のストーリーを描くことにより、提言、構想の具現化に向け、急速な流れが始まることを念じています。

ご清聴ありがとうございました。

ズットナー女史没後百周年を迎えて

—成果(結果)∥能力(0∪100)×熱意(0∪100)×考え方(1∞∪0∪+∞)—

小松 昭夫

皆様こんにちは。

人間自然科学研究所の理事長小松昭夫と申します。

今日、ベルタ・フォン・ズットナー女史没後百周年を記念する意味深い場所で、彼女を尊敬する皆様とお会いし、ズットナー女史の平和活動の意義を共有できることを嬉しく思います。

先ほどの動画でご紹介させていただきましたが、人間自然科学研究所は、人類の特性と歴史を考察し、「積極的平和主義」に徹し、二十年の歳月をかけ、人類進化に至る対立・統合・発展が循環する「和の文化」を生み出すため、世界の戦争・平和記念館を訪問、民間外交を重ねてきました。

一九四五年七月二十九日、日本「ポツダム宣言」黙殺と報道、八月六日広島、九日長崎に人類史上初めて原爆投下、九月二日ミズーリ号での調印により、イタリア、ドイツに続いて日本の「敗戦」が確定、人類史上例のない被害をもたらした第二次世界大戦が終わりました。

日本は天皇放送が行われた八月十五日を「終戦」記念日と定め、今日に至っています。この「終戦」という言葉を積極的に生かし、「人類社会の戦争を終わらせるさきがけを務める国家」と定義づければ、日本から世界恒久平和への道筋を示せると確信しています。

百年以上前に世界大戦の勃発を予測し、小説『武器を捨てよ！』で戦争阻止を世界に訴え、空爆により人類が

構想とは、「国民国連・国際平和センター」です。

現在の国連は、一九四五年二月のヤルタ会談で合意され、常任理事国五か国を含む大国主導で運営、一九三九年の「政府代表」で構成され、時には正義を掲げ武力を行使しています。「国民国連」は、人類の特性と歴史的経緯を生かし、論理的討議を通じて、長い時間軸で道理を実現するストーリーを生み出す、「国民代表」で構成される集団です。

また、「国際平和センター」は、対立が続く日本の沖縄の人類史から見た地政学的な意味を研究する中から生まれました。人類の未来を拓く「誓いの施設」として同センターを創設し、「世界恒久平和発祥の島」とする構想です。

これは、次の主要三施設により構成されます。

- (1) 世界の戦争と平和関連博物館を情報通信技術 (ICT) で結び、各施設の資料と写真・映像を総合的に扱い、世界に配信する「世界戦争平和映像センター」。
- (2) 世界中から近代の戦争の全戦没者電子データを集め、永遠に記録、閲覧できる「メモリアルタワー」。
- (3) 最先端の科学技術とICTを生かし、平和会議、平和貢献者への顕彰、「知のオリンピック」などを開催し、「和の文化」を生み出す「和の殿堂」。

そして提言とは、米国・露国・中国の三大核大国の結節点、朝鮮半島と日本列島を三大核大国の積極的支持を得て非核化し、「和の文化」発祥地とすることと、すべての核保有国の段階的な核削減の同時スタートの提言です。

今から三百年前、私の故郷、出雲国日吉村（現・鳥根県松江市八雲町）の周藤彌兵衛翁は、私財を投じ、五十六歳から九十七歳まで四十二年をかけて、硬い安山岩の霊山・剣山（つるぎやま）をノミと槌で切り崩し、切通しを完成、



上/なかじまさんのイラスト作品「夏を追いかけて」と「海辺」。見る人に子ども時代を思い出させ、どこかノスタルジックでロマンチックな作風。パッケージのイラストも手がける。

1/漆作家・小島ゆりさんのコラボで生まれた作品。松江藩お抱え塗師時絵師 12代目にして漆塗継承者の小島さんは中学の同期生。つやつやと光沢のある色漆がしじみ貝を彩る。2/きれいにした処理を施した貝を布で包み縫い合わせて作品を作る。気が遠くなるほど緻密な作業だ。板気の良さと手先の器用さは祖母譲り。

らないことも悩みの種だったという。「イラスト専門のスクールに入学して基礎から学び直しましたが、自分の表現方法を探すことは孤独な作業。泣きながら絵を描いていましたね」

暗いトンネルを抜けたのは2008年のこと。住まいを千葉から東京の小金井へ移し、長らく悩まれた体調不良も漢方のおかげで解消しつつあった。「グループ展の準備をする中で、アクリル絵の具をベースにして、ようやくイメージ通りの世界を描けるように」

この時、重い雲が切れて空が見えたような気持ちになったのだろう。なかじまさんは念願の第二子を授かった。

故郷のしじみ貝を使ったアート制作は

無心の祈りに似て

しじみ貝を使ったアクセサリー作り

祖母のしじみ細工に端を発したなかじまさんのしじみアートは今、世界に舞台を広げようとしている。2019年には、パリで開催された「Japan Expo 20」に海外初出展。モノ自体のクオリティはもちろんだが、その背後にある物語やフィロソフィが高い評価を得た。

「しじみの貝は2枚で1対、互いにぴつたりと合う相手は他にないことから縁結びの象徴とされています。しかも、そのしじみを育む宍道湖は良縁を授けてくださる出雲大社のお膝元。人と人



1/「JapanExpo 20」会場の様子。2/「JapanExpo 20」ブースでは浴衣姿で対応。3/子どもたちから高齢者まで幅広い層を対象にしたワークショップにも積極的だ。昨年からはオンラインでも開催。

を本格的に始めたのは、第二子が産まれた後のこと。地域のマルシェに出展することになったものの思いつくのは自身のイラストを素材にしたレターセットなど。他に自分でできるものはないだろうか。考えた末に思い出したのが、何年前か一度イベントに出したしじみのオブジェだった。

「その頃の私にとって故郷は遠くなる一方。実家を離れて年月が過ぎ、結婚で名字も変わり、松江と自分を結ぶ糸はどんどん細く弱くなっていく。それを何とかつなぎ直したくて、宍道湖のしじみ貝でオブジェを作ったんです」

しじみ貝のオブジェは予想以上の反響を呼び、友人からはアクセサリーにしたら？のアドバイスももらった。

「やるなら今だ！ そう思いました」
当時のなかじまさんは、やんちゃな男児ふたりを相手に子育ての真っ最中。イラストに集中するほどのまともな

国と国、地方と都市など異なるモノ同士が出会い、良い縁が広がるよう祈りを込めて制作していることを、作品を通じて感じ取ってもらえたのだろうと思います」

なかじまさんは今、作品に使う素材も広く世界各地に目を向けて探し始めています。パキスタンのラリーキルトにスウェーデンのリネン、フランスのレーズリボン、日本の刺し子や久留米絨。女性が身近な人のために作り暮らしの中で受け継がれてきた素材が、宍道湖のしじみと出会い、アクセサリーとして新たな命を得て誰かの手で大切にされていく。

「布や糸だけではなく和紙や漆も素材として大きな力を秘めていると思います。しじみをキャンパスに、さまざまな暮らしの手仕事共存する。互いに優劣を競うのではなく違いを認めて横につながり合えたら、社会はもっと豊かなものになる。そう思っています」

そして手仕事の喜びやしじみアートに込めた想いを一人でも多くの人に知ってもらおうと、各地でワークショップを開催している。
宍道湖で生まれ、なかじまさんによって新たな命を得たしじみちょうは、人や地域、文化の垣根を軽々と超えて未来へ向かって羽ばたいている。

サリーの古製などにステッチを施したラリーキルトも素材に。古いものや不要なものを活かし新たな価値を生み出す考え方は、なかじまさんのものづくりと共鳴する。



しじみをキャンパスに 世界各地の手仕事をつなぎ 心の豊かさを共有する

時間は持てないが、しじみ貝のアクセサリーなら隙間時間に少しずつでも進められる。
「送り迎えの合間、ファミレスでちくちくと針を動かしながら思い出したのは祖母の姿。そういえば今の私と同じように、家事の隙間のちよつとした時間には手を動かしていたなあ」と

まさんは言う。
「誰かを思ってもものを作る時、人は無心になれます。自我を離れ、深く深く意識の海にタイプするイメージでしようか。潜った先にあるのは、個人を超えて誰にも共通する集合的無意識。そこに至った時、私たちは国や文化の違いを超えて想いを共有し、心の深いところでつながり合えると感じています」



八雲立つ出雲から、世界へ縁をつなぐ。
しじみアーティスト・イラストレーター

なかじままさえ

宍道湖のしじみ貝に
アートとしての
新たな命をふきこみ、
人と人、異文化をつなぐ。

文・橋本 日高むつみ 撮影・神庭恵子 アレンジ・多田彬子



朝

霧立つ静かな湖面にいくつもの小舟が浮かぶ。船の上には鋤籠を巧みに操る漁師の姿。湖底をさらうように収穫されたヤマトシジミは大粒で、貝いっぱいにふくよかな身が詰まっている。滋味豊かなしじみは松江の人間にとって身近な日々のご馳走であり、全国に誇れる郷土の味である。松江で生まれ育ったなかじままさえさんにとっても、しじみは懐かしい故郷の味。そして幼い頃に親しんだ祖母の手仕事に欠かせないものだったという。



1/宍道湖のしじみ漁。朝の光を受けて輝く湖面に小舟が浮かぶ。2/素材のしじみ貝。この状態から①歯ブラシで洗い、②消毒を行い、③天日干しの後に④貝合わせをして⑤ヤスリで磨いて、ようやく下処理が完了する。3/宍道湖産ヤマトシジミを扱う松江「平野缶詰」も協力。故郷からアトリエに貝殻が届く。

ささやかな、慎ましやかな、
しかし豊かで愛おしい、
暮らしの中の手仕事

そういうものを愛おしいと思いつながり
大きくなったように思います」

自分の表現を見出せず
苦しんだ20代

「祖母はいつも何かしら手を動かしていました。そんな時、祖母のかたわらにはきれいな端切れや色とりどりの糸と紐、小さな鈴やボタンとともに、しじみの貝殻があつたのを憶えています」
しじみの貝殻で作る根付は、松江の女性にとって母から娘へと受け継がれる手しじとのひとつ。なかじまさん自身も祖母から根付づくりを教わった。「ささやかな、つつまじやかな、しかし豊かな日常の中の彩り。いわゆる伝統工芸とは異なる、女性たちが暮らしの中で共有してきた名もなき手仕事。

やがて成長したなかじまさんは進学で松江を離れ、就職とともに東京へ。「もともと絵を描くことが好きだったこともあり美術系の短大へ進学。インテリアデザインを学んで内装系の会社に就職したんですが、仕事を始めてみて実は立体が苦手だったことを自覚して…。(笑)」
内装の仕事は思った以上に男社会だったこと、また体力勝負だったこと

なかじま まさえ

鳥根県松江市生まれ。東京都小金井市在住。イラストレーターとして活動するかわら、2013年に宍道湖産しじみの貝殻を素材としたアクセサリーを開発、《しじみちょう Made by MasaeNakajima》として展開し、都内の百貨店やマルシェなどのイベントに出展。2019年にはパリの《Japan Expo 20》に参加し、国内外から注目される。



「しじみちょう Made by MasaeNakajima」の代表作、対の貝殻を使ったブローチ。しじみ魚の景色などが細かくペイントされている。



もあって結婚を機に退社。移り住んだ千葉で販売や営業のアルバイトを経験しながらイラストを仕事として手がけるように。
「子育てを考えると、家のこともやりながら自分のペースで進められる仕事にシフトしたい。しかも長く続けられる仕事に…と思ってた頃、友人に誘われて地元のデザインフェスタに出展したのがきっかけです。子どもの頃から好きだった絵を仕事にできたことは嬉しかったですね」
その後26歳で第一子を出産するが、子育てしながらの仕事は思った以上に大変だった。初めての子育てからくる体調不良に加えて、自分の作風が決ま

小松電機産業

4 人間自然科学研究所

【会社概要】
所在地 松江市乃木福富町735-188
営業種目 ソフトウェア開発事業
通信システム開発運営事業
電気機械器具製造業
代表取締役 小松昭夫
従業員数 100人
電話番号 050-3161-2490



人間自然科学研究所のマークはユーラシア大陸から見た日本列島、星は竹島

けた「突き落とせ」と叫んでいたと知ったのは、彼が降参した後のことだ。言葉の裏には強い反日感情があった。「この事件以来、歴史を学ぶことの重要性を痛感したのです」と小松は振り返る。

独立記念館に献花寄付

それから数年を経た中国、韓国では、愛国主義教育への傾倒が目立ち始め、抗日記念館の建設が相次いだ。きっかけは、日本で起こった第一次教科書問題だった。「このような状況が続けば、日本は、人物・人財が育たない国になり、組織や国家が内部崩壊していく。メディアと学校教育で近代史を教えることがなかったことが根本原因。そう確信した

時代を先取り、高速シートンヤッター「happy gate 門番」総合水管理「やくも水神」という二つの大事業を創出し、システム化したきた小松電機産業(株)松江市乃木福富町、小松昭夫(会長兼社長)、同社の進める事業は、人々の暮らしの質を向上するだけにとどまらなかった。1994(平成6)年、ドゥワー&シンクタンク「人間自然科学研究所」を設立、世界を舞台に平和事業を展開。人類史・世界視野で現状を見つめ、共感の場を生み出し、対立から統合・発展に進めるようさまざまな活動を重ねている。

韓国旅行の経験が契機

小松(77)に、強い平和への念いと行動力が生まれたきっかけは、30歳の時、電機業界の旅行で初めての海外、韓国を訪れた時の出来事だった。当時の韓国は戒厳令が敷かれていて、観光客



(左)2013年、「平和宮100周年」式典前夜祭にカーネギー管絃とともに参加。
(右)2014年、ズットナー女史没後100周年記念で、銅像作者の国際弁護士・芸術家ロレマ女史、6ヶ月間ズットナー像をウィーン平和記念館に貸出。広島・長崎・板門店・ウィーン・ハーグ5カ所同時建立を目指す

戦後責任果たす未来づくり 事業を通じて世界で平和活動

小松は、社員や取引先らと訪問団を結成し、各地の平和祈念館を訪問するようになった。97(同9)年には、日本人として初めて、韓国の独立記念館に献花、寄付。2001(同13)年には、中国人民抗日戦争記念館、その翌年には、台児荘大戦記念館を訪問。同様に献花、寄付を行った。

所など、戦争の痕跡が残る世界各地に足を運んでいった。「終戦時、私は2歳だったので、戦中・戦中責任はありません。しかし、戦後責任があります。なぜ戦争が起きたのか。自分が人間だ」という認識があれば、時代の背景やプロセスをよく研究し、さまざまな対立を生かし統合、新しい未来を創る義務と責任があると考えたのです。小松の口調が強く、熱くなった。

「世界の20人」の一人に

人間自然科学研究所は、世界各地の戦争記念館への訪問だけでなく、長年に渡り「平和フォーラム」を開催。さらに、江戸時代中期現在の松江市八雲町で、水害から村人を守るため、意宇川の開削をした周藤彌兵衛や、出雲平野西部で開拓と治水に取り組んだ大槻七兵衛ら、水に関する世界の偉人を顕彰する活動も行ってきた。

四半世紀に及ぶ一貫した活動は国際的にも注目され、13(同25)年、オランダ・ハーグに



(左)1997年、韓国・天安市の独立記念館に日本人として初めて献花、寄付
(右)2001年、日中戦争勃発の地、中国北京郊外盧溝橋「抗日戦争記念館」にて献花、寄付



2005年、米国アリソナ記念館「平和祈念式典」で小松昭夫社長が献花、寄付(右上)
2017年、39人の訪問団で再訪。名誉団長 小松千恵子氏が真珠湾攻撃生存者の元兵士アルフレッド・B・K・ロドリゲス氏と握手、趣意書を発表



2014年、8月1日水の日、松江市八雲町・日吉親水公園での周藤彌兵衛翁銅像(米国製青銅、小松電機産業寄贈)建立除幕式。燕趙園の孔子、孟子像と同じ、松江歩兵第63連隊の兵士が多数戦死した中国山東省の台児荘で制作



(左)2009年、第二次世界大戦で2000万人が亡くなったロシアのウラジオストトク・ハバロフスクの慰霊碑、シベリア慰霊平和公苑日本人墓地を22名で訪問、献花
(右)2019年、ベルタ・フォンズットナー像作者、芸術家・国際弁護士のイングリッド・ロシマ氏と合流、アウシュヴィッツ強制収容所跡地、ワルシャワ蜂起記念碑等を慰霊訪問

「平和宮 国際司法裁判所」の建立100周年記念祭で、100年間の世界平和事業家20人の一人に選ばれた。

翌年には、女性で初めてノーベル平和賞を受賞したオーストリアの平和活動家ベルタ・フォンズットナーの没後100周年を記念して創られた「ズットナー賞」受賞。19(令和元年)には、「アジアはひとこ」を提唱した岡倉天心に由来する「岡倉天心国際賞」も受賞した。

昨今のコロナ禍でも、国内外をつないでオンラインシンポジウムを開催し、平和・環境・健康への関心を広め、次の時代を拓く準備を続けている。ズットナー女史と、近代上下水道の父、W・K・バルトン氏の銅像世界10



2021年2月22日「第0回 平和・環境・健康は一つ 国際Zoomシンポジウム」を小松電機「太陽ホール」を起点に開催。国内外から29人の講演者がスピーチ行中だ。

「一門番」と「やくも水神」という大きな二つの事業を興した小松電機産業。二つの事業として力を注いできた平和の事業化に向けた活動も、国内外の大学や戦争記念館、ラジオと連携しつつ、各地に浸透しつつある。今年2月22日にシンポジウムを開催、新構想「国民連」を提言予定だ。

「多発する自然災害に、人為災害、コロナ禍が重なると、宗教・経済政治の三つの関係性が創ってきた人類社会を根本的に見直す必要がある。未来が拓けない状況になっている。正義から道理へ歩いた後に道ができる。今争っている時間はない。きつぱりと言いつつ切った小松。その念いは、さらに先を見据えている。

(文中敬称略) — おわり —
フリーライター 門脇奈津子

小松電機産業

3 やくも水神

【会社概要】	
所在地	松江市乃木福富町735-188
営業種目	ソフトウェア開発事業 通信システム開発運営事業 電気機械器具製造業
代表取締役	小松昭夫
従業員数	100人
電話番号	050-3161-2490



クラウド型リアルタイム表示で令和2年度中国地方発明表彰式「中国経済産業局長賞」を受賞。中央が小松昭夫会長兼社長＝2020年10月

作業場に改修した納屋で起業した小松電機産業(株)（松江市乃木福富町・小松昭夫・会長兼社長）は、高速シートシャッター「門番」シリーズの開発・製造販売で、オリジナルメーカーとして飛躍的に成長を遂げた。さらなる転機となったのが、同社の原点「水」に関連する商品の開発だった。同社は、クラウドによる水の通信インフラ事業と、全国の治水偉人顕彰事業を、平和の事業化の入り口と位置づけ、力を注いでいる。

電話専用線の遠方監視

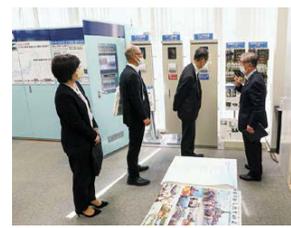
下水用ポンプの修理から始まった小松電機産業のちにオリジナルブランドとして名をはせる水管理システム「やくも水神」につながる最初のステップは1977（昭和52）年、電電公社専用線による遠方監視装置の開発だった。

注目発明選定証を受証

94（同6）年には脱リン、脱

窒素が特徴の「ニューやくも水神」、翌年には水システムの進歩・進化を促す「パッケージ水神」を発表。この年には、科学技術庁第54回注目発明選定証を受証した。

2000（同12）年からはNTTドコモのiモード、ドゥーパ（閉域網とインターネットを組み合わせた新システム）を構築。10（同22）年には、クラウドフォロムをゼンリン地図からGoogleマップに変え、スマートフォン



やくも水神を紹介する小松昭夫会長兼社長（右端）＝松江市乃木福富町、小松電機産業

水の総合管理システムを開発 全国自治体で実績積み重ねる

タブレットで遠隔操作ができるようにした。性能が飛躍的に向上し、急速に全国に普及していった。

「水の行政は統制り。しかし

「やくも水神」は一つのスマホやiPadで上下水道から農業・産業用水、水門・消雪などまでトータルで管理できます。天気予報を組み合わせた広域クロス

オーバープラットフォームの提供は、他社にないコンセプトです」と小松は語る。

「当初周囲から「官公庁の仕事の全国展開なんてありえない」と異口同音に言われました。しかし、「天の時、地の利、人の和」を念頭に、現実化していくのが事業家なのです。世界同時にクラウドの時代を迎える中、社会にとって意義あるサービスを生み出し続けなければ、個人や会社だけでなく、自治体や国家も持続できなくなると考えています。時代を見据えた事業への評価は高く、一昨年は、



継体天皇ゆかりの3000億円をかけた福井県九頭竜川・日野川・足羽川流域国営・県営バイパスに「やくも水神」採用

「やくも水神」のクラウド型リアルタイム表示が公益社団法人発明協会の中国地方発明表彰で中国経済産業局長賞を受賞した。

「水は平和の源」の念い

「やくも水神」ネットワークシステムは現在、北海道から沖縄まで全国の自治体3割弱に当たる4877自治体、1万5200を超える施設で導入されている。現場の巡回を極端に減らし、少人数でも管理可能なシステムは、小規模の自然環境が厳しい自治体、特に大きな効果を発揮している。また、ポンプ制御通報装置を遠方操作管理システムに進化させ、部品点数を5分の1に縮小してユニット化。水没レベルが

40センチほど上がり、洪水被害を受けにくくなった。内蔵電池を備え、停電時も標準24時間、最長7日間稼働できるようにした。各種メーカーの制御盤でも短時間でクラウド管理に移行することも、注目を集めている。

「やくも水神」事業を通じて、平和プラットフォーム構築の一翼を担うと語る小松。やくも水神「門番」という二つの大きな事業に加え、同社が力を注いできたもう一つの欠かせない柱が、「ドゥーパ」シンクタンク人間自然科学研究所だ。1994（同6）年の設立以来、「平和・環境・健康はひとつ」を世界へ発信、恒久平和とモテ創出を目指している。「水は平和の源」の念いに根付く活動の発端には、若き日の小松のある経験があった。

（文中敬称略）
次頁に続く
フリーライター 門脇奈津子

自治体により上下水道料金 8倍の差

広域クロスオーバー管理

水道施設 下水道施設 水門施設 農業用水・水源施設 消融雪施設・アンダーパス

役所 役所・庁舎 施設管理業者 大学 研究機関 メーカー

外出先 車中 現場

世界に先駆けRubyでシステム構築

経費と担当者の負担 劇的に削減



やくも水神について発表する小松電機産業の担当者＝2010年6月

小松電機産業

2 新事業への挑戦

【会社概要】	
所在地	松江市乃木福富町735-188
営業種目	ソフトウェア開発事業 通信システム開発運営事業 電気機械器具製造業
代表取締役	小松昭夫
従業員数	100人
電話番号	050-3161-2490

少年時代からのづくりに興味を覚え、中学生の時には技術者と事業家の両方の資質を身に付けていたベンチャービジネスの旗手、小松昭夫（77）。8年間の農機具メーカーでの勤務を経て、大阪で設計や経営の実践的な基礎を学んだ小松は1973（昭和48）年2月、故郷・島根県八

雲村（現松江市八雲町）に帰郷、小松電機産業（株）（松江市乃木福富町、小松会長兼社長）の前身、小松産業を立ち上げた。

納屋を自ら改造し起業

ベニヤ板やアルミサッシを買ってきて、自宅の庭先にあった納屋を自らリフォームした作業場が、本社。電機と経理の基礎を学んだ実弟と2人だけの出発だった。開業時の運転資金はわずか10万円。そこで元手がかからないポンプ修理業からスタートした。

近郊を訪ね歩き、井戸・農業・土木・污水ポンプの修理を受注。さらに地元企業の制御盤組立や配分電盤製作などを請け負い、取引先の確保と資金の蓄積を重ねていった。下水用ポンプなどが嫌がるような仕事も積極的に受けることで顧客が増え、仕入れ先との関係も構築、腕の良



創業1年後の納屋を改造した小松産業本社前にて。前列左が小松会長兼社長＝1974年ごろ



小松昭夫会長兼社長
龍谷大学教授2名を招き「対立から共生の文化へシンポジウム」開催



夕方、穴道湖畔2地蔵前にて「全国世界水の偉人172人覚醒顕彰祭」(2019年6月8日開催)

シートシャッター「門番」開発 改良重ね全国ヒットの製品に

に模索したのは、下請け企業からオリジナルメーカーへの飛躍だった。

80（同55）年、小松とゆかりの深い三菱農機から、後の大ヒット事業につながるカーテンシャッター製作の依頼を受けた。車両が通過する際にすばやく開閉する仕組みで、防寒のため工場の出入り口に据え付けたいという内容だった。

配電盤の受注生産に追われていた小松は当初、開発に携わる余裕がないことを理由に依頼を断っていた。しかし、技術力を見込んだ度重なる要請に応じざるを得ず、翌81（同56）年に開発に着手した。

そんな中、小松は究極の試練に見舞われた。安価で、ラニングコストの低い自社の水道計装装置の需要が急増し、大手電機メーカーや地元電気工業界のやっかみを買ったのだ。政財界の既得権益団体と真つ向からぶつ



長島克己村長（当時）を招いて折り畳み式シートシャッター「門番」発表会（八雲村本社にて）＝1985年10月



1991年ニュービジネス大賞受賞
ニュービジネス協議会2代目会長の関本忠弘氏（日本電気株式会社社長）から表彰を受ける小松昭夫会長兼社長（右）



「フリーライター・門脇奈津子」
（文中敬称略）
次頁に続く

り、配電盤の引き合いや受注が激減。倒産のうわさが流れ、社員6割が会社を去ってしまった。

ニュービジネス大賞に

このピンチをチャンスにすべく、三菱農機の依頼で製作していたシートシャッターを基に、現地組み立て方式で短期間の製品化を実現。85（同60）年には折り畳み式初代シートシャッター「門番」を全国発売した。その後、巻取り式にしたり、ドイツ製サイクロン減速機を内装したモーターに変えたりするなど、短期間で安全性、耐久性、省エネ効果

を飛躍的に向上させていった。現在の原型を開発した後は、当時として珍しいビデオカタログを製作。東京・大阪の展示会に出席、本格的な全国販売をスタートさせた。

稼働しなくなった配電盤ケースの板金設備を転用することで新たな設備投資をすることなく「門番」の量産を実現。まさに、「災い転じて福となす」を現実化した。

強い冬の季節風が吹く山陰地域特有の悩みを解決することから誕生した「門番」冷暖房、防塵、防風効果が高まることなどが劇的に評価され、中央会推薦

で、91（平成3）年には中小企業研究センター賞、ニュービジネス大賞を受賞した。いずれも製品の優秀さだけでなく、社会問題の解決を先取りした新しい事業モデルが評価される権威ある賞で、これをきっかけに、全国水準で特出した会社と認知されるようになった。

三方よし精神で技術公開

ダブル受賞の前の90（同2）年、韓国企業と業務提携。冬は氷点下10度以下、夏は40度近くにもなる韓国からは、発売当初から問い合わせが相次いでいた。

翌91（同3）年には、株式市場に近い位置にいたにもかかわらず、韓国への技術無償提供を発表、周囲を驚かせた。その後、社団法人日本シャッター・ドア協会、シートシャッター委員会の



歴上全面に太陽光発電を備えた松江工場
歴代「門番」が展示されている「happy gate 門番」
板金無人製造ライン

初代委員長に就任した小松は、構造・安全・保守基準の作成、業界初のエコマークの取得を通じて、国内のライバル各社にも技術を公開。欧米メーカーからも積極的な技術資本提携の誘いを受けた。世界的な交流を深めていった。小松は、「買い手よし・売り手よし・世間よしの」三方よし先義後利です」と笑う。

「門番」シリーズはその後さながらの進化を遂げ、東京・豊洲市場をはじめ、各地で需要が拡大している。

そして小松電機産業は、次なる革新的新事業を世に送り出す。松江生まれのプログラミング言語「Ruby」で構築された、社会インフラクラウドの先駆け、総合管理システム「やぐも水神」だ。

小松電機産業

1 事業者の資質

【会社概要】 小松電機産業株式会社/松江市	
創業	1973(昭和48)年
営業種目	ソフトウェア開発事業 通信システム開発運営事業 電気機械器具製造業
資本金	1億円
代表取締役	小松昭夫
従業員数	100人
所在地	松江市乃木福富町735-188
電話番号	050-3161-2490

長期的な時流を読み、卓越した着眼、実行力で、クラウドによる総合水管理システムのパイオニア「やくも水神」と、高速シートシャッターシステム「happy gate 門番」という二つの大きな事業を創出した小松電機産業(株)（本社・八雲町、事業所 松江市乃木福富町、小松昭夫・会長兼社長）。二つの事業は、社会のニーズや時代の変化を先取り、市民の日常生活や経済活動を支えてきた。ベンチャービジネスの旗手と言われる小松(7)が、四半世紀にわたって推し進めてきたのが、「ドワーフ&シンクタンク」人間自然科学研究所の平和事業だ。和議の旗を掲げ、国内外の戦争・平和祈念館を数多く訪問し、国際シンポジウム開催は30回を超える。平和・環境・健康はひとつという言葉は、ラジオ放送やYouTubeなどを通して世界各地で知られるようになった。

ラジオキットで経済経験

空間価値をプロデュースする高速シートシャッターシステムで、「ニュービジネス大賞最高賞」やものづくり日本大賞優秀賞、「科学技術庁の「注目発明選定証」などの受賞で、社会性の高い事業が大きく評価されてきた小松電機産業。そのスタートラインは、ものづくりが好きな一人の少年の挑戦だった。

「中学生の頃には、ラジオの組み立てキットを買ってきて自分

で作っていましたね」と振り返る小松。ラジオ製作雑誌が相次いで創刊され受信機を製作する少年も少なくなかった時代、小松少年は物品税がかからないラジオの組み立てキットを購入し、完成させたラジオを知り合いに販売した。今も理念に掲げている「買い手よし売り手よし世間よし」の三万よし。10歳代半ばには、技術者に加え、事業家としての資質が既に芽生えていたようだ。

卒業生中でトップ評価

家庭環境と長男の責任感から、地元へ本社研究部門があり、全国展開している農機メーカーに就職することを旨とし、松江工業高校機械科に進学した。旧八雲村(現松江市八雲町)の実家から約10*の地道を自転車で通い、担任の先生の親戚が営む家具店でペーパーベッド・タンスの設計・広報の仕事を手伝った。得た収入で機械の専門書や50ccの新車バイクの頭金を払って購



小松昭夫社長

トランスミッションに興味 耕運機の将来展望を卒論に

入。1200人の生徒で、新車のバイクに乗っていたのは小松ただ一人だったという。

専門科目の機械設計には特に力を注いだ。トランスミッションに興味を湧かした小松は高校3年生の時、全国の耕運機メーカー約20社に卒業論文のための資料送付をはがきで依頼した。すると熱意ある学生の頼みに多くのメーカーが応えてくれた。想像を超える資料を元に小松は、日本の耕運機の発展の経緯と現状、将来の展望を論文にまとめた。

新人ながら研究所配属

入社情報に圧倒的に詳しい弱冠18歳の新人小松は、大手総合農機メーカーで、地元唯一の1部上場会社「佐藤造機」現三菱マヒンドラ農機)に入社主力商品であった耕運機の開発・設計部門に配属され、トランスミッションの性能改善に注力

した。

しかし、他社に追従する文化の会社は1971(昭和46)年農具・農機・農業機械・精密機械へと急速に変容するトレンドに乗れず、経営破綻。若くして業界全体を本質的な視点からグローバルに考えるようになった小松は、会社に何度

も改善策を進言したが耳を貸してくれなかったという。地域・会社の文化が破綻の原因。若い時の会社倒産の経験が、今の会社経営に大きく役立つ教訓となった。

小松は26歳の時、休暇を取って安来市の清水寺で1カ月、座禅に入った。その後、事業家を目指す退職。事業を学ぶため大阪の小さな機械設計事務所に半年間の契約で入社、プラント設計の難しさを実感した。次に、設備用水ポンプ販売や、大型フェリーの稼働式稼働橋の提案、設計、製造、納入、メンテナンスを総合的に行う社員15人の商社



豊洲市場に納入されている高速シートシャッター「門番」



で、2年間社長側近として働き、事業の醍醐味を実感することができた。

「いろいろな見本市を回り、見識を深めました。人の話をよく聴いて、相手の期待値を探り、それを越える提案力があれば、小さな会社でも大手と互角に戦えることを実感しました。」

73(同48)年故郷に戻り、電気と経理の基礎知識を学んだ弟と起業。二人の失業保険30万円を元手に、工具と中古小型トラックを購入し、自分たちで切った実家の納屋をスタートを切った。手元に残った現金はわずか10万円だった。

(文中敬称略)

フリーライター 門脇奈津子



松江工業高校時代の小松昭夫社長



佐藤造機研究所勤務時代の小松昭夫社長(左から2人目)=1966(昭和41)年



座右の銘の「中庸」。小松氏は孔子や孟子、墨子、西岡をはじめとする古今東西の哲学を考察、実践を通して多くの気づきを得ているという。

対立から 共生の文化へ。 平和実現の道を 探求し実践する。



誕生日に社員一同から贈られたネクタイをつけて。「ここ一番の勝負ネクタイです」

地球温暖化による気候変動が深刻と
なっている今、また国際分業が進みど
の国も一國では生きられない時代に
あって、環境問題は世界中が当事者意
識をもって取り組むべき差し迫った課
題だと小松氏は言う。

「これを捨て置いて目先の利を追いか
ける会社は反社会的存在と言っても過
言ではない。平和・環境・健康はひとつ。
これなくして理想の未来社会実現はあ
りません」

人が生きるために不可欠な空気と水。
この二つを司るシステムを小松電機産
業が開発し世界に向けて展開している
ことは単なる偶然とは言えない。そこ

には人知の及ばぬ天の理が働いている
ように思えてならない。

「やくも水神」は2000年に出張市
で採用されて以来全国に広がり、現在
では470自治体で1万3000施設
で採用されている。クラウドによる世
界初の総合水管理システムであり、専
用アプリでタブレットやスマートフォン
からもリアルタイムで監視・制御・
管理が可能だ。

「夜中の故障時、広域に点在する施設
情報を瞬時に把握・共有・遠隔操作
必要な時にはナビゲーション機能で現
場に案内、保全ができます」

いち早く「やくも水神」を導入した

頂点に近づこうとしています」
この抑制された対立関係を解決に導
くことこそが、世界各地で起きている紛
争を昇華するモデルになると小松氏は語る。

「人類は発展が破壊の大きな分水嶺
に立っています。人間は神にも悪魔にも
近づける存在。いまこそ人類の叡智
を注ぎ、勇気をもって対立から共生の
文化へ舵を切るべき時。その発信源は
古代文明発祥の地であり、生命の源・
水をたたえる湖に抱かれた地であり、
朝鮮半島の対岸に位置する六道湖中海
圏以外にありえない。そして四半世紀
を超える人間自然科学研究所の活動を
通して、世界各地に信頼し合える人と
縁を結びネットワークを構築すること
ができました。今やらなきや、いつや
る?」

私たちがやらなきや誰がやります
か?」

2021年2月22日、鳥根県によっ
て制定された「竹島の日」に、小松氏

は「八雲立つ出雲から平和・環境・
健康はひとつ」国際Zoomシンポジ
ウム」を開催した。ここで提唱された
のが国際平和センターの創設と世界の



オランダ・ハーグの平和宮で開かれた「世界の平和
フランソワ・プロテスタント20人」パネル展示会。小松氏のは
カピル・ドイツのパネルも見える。



上/オーストリアの平和活動家・作家で女性初のノーベル
平和賞受賞者であるベルタ・フォン・ズットナーの胸像。オ
ランダの芸術家にして国際弁護士、イングリッド・ロレマ氏
の作品。台座に刻まれているのは、各国の言語で記された
「武器を捨てよ」の文字だ。

下/2020年11月に行われた【嫁ヶ島万灯会】。平和を
願い、千の灯火が灯された。人間自然科学研究所は「嫁
ヶ島万灯会」に賛助賛助兵衛者をはじめとする「水の偉人」
の灯明を奉納した。全国世界の水の偉人の顕彰事業も始
まっている。

東京都町田市では東日本大震災後の
計画停電に備えて事前にマンホールの
汚水制御に成功。津波で甚大な被害
を受けた東北地区では水門の遠隔閉閉
管理を導入。東京都武蔵野市では「やく
も水神」の雨水管理システムによっ
て得た雨水情報を日Pで公開。市民一
人一人の災害に対する意識が高まりつ
つある。また豪雪被害にあえぐ北陸で
は消雪施設の遠隔管理に大きな効果が
認められたことから急速に普及してい
る。

災害という大きな社会問題を先達の
IT技術により解決へと導いた好例と
言えるだろう。自然災害は日本だけの
問題ではなく、中国やインドで起きた
洪水も記憶に新しい。水の情報を一本
化、共有することで未然に災害を防ぎ、
被害を最小限にとどめる。「やくも水
神」は世界からも注目を集めている。
「happy gate 門番」と「やく



中国の古典から「平和・環境・健康」に関する中
日両国を語り出した「中国古典名書群 卷第
四巻 4ヶ国語」を5年かけて編纂。巻頭
には出雲大社宮司、千家尊祐氏による「幸福
奇蹟」の文字がある。

核放棄へのロードマップ、各国の国民
代表で構成され対立を統合発展に導く
「国民国連」の構想だ。

小松氏が描き出す未来予想図は決し
て夢物語でもおとぎ話でもない。一触
即発の緊張関係、紛争を招く対立構造
は世界を巻きこむ究極の社会問題であ
ると同時に大きな資源だ。平和は単
なる観念ではなく事業として取り組む
べきテーマ。そしてこの26年をかけた構
想を実現に導くことは小松氏の天命な
のだ。

も水神」二つのシステムは小松電機産
業に大きな利益をもたらした。一般
な経営者ならば、ここで株式上場や規
模拡大を目論むだろうが、小松氏は
違った。得た利益は会社を大きくす
るためではなく世の中のために使う。
平和な未来を創出する事業に投資す
るのだという。その眼差しは世界へ、
地球規模の問題へと向けられていた。

そこで設立されたのが人間自然科
学研究所。小松氏自身が理事長を務め
るシンク&ドゥタンクだ。1994年
の設立以来、世界の戦争・平和記念館
を訪問。学習や献花、寄付を行うなど
の活動を続け、紛争・戦争に至る背景
と経緯、実態を調査研究。対話を重ね
議論を交わし、対立や緊張を解き共感
・共生する道を探し求めてきた。そして
今、小松氏はこの平和事業をさらに一
歩前へ進めようとしている。

「私たちの住む日本は海を挟んで朝鮮
半島と向かい合わせにあり、秀吉の朝
鮮侵略や韓国併合、戦争による遺恨が
蓄積され、長らく人権・歴史・領土な
ど多岐にわたる対立が続いています。
また、このエリアは3大核保有国であ
るアメリカ、ロシア、中国の力が拮抗
する結節点。いつ何が起きてもおかし
くない火種を抱えた地域であり、まさ
に竹島・独島問題を契機にその緊張は

クラウドネットワークやAI、VR
などの先端技術は、小松氏の目指す平
和のためのプラットフォームを現実の
ものにしつつある。そして、ここにヒ
トモノカネが集まり社会変革への一手
が動き始めた。先を走り続ける小松氏
の姿を、時代がようやく捉えたといっ
たところだろうか。



社会的大問題が 経営資源。

先端技術で昇華し 新たな事業に。

小松電機産業の原点は松江の南東に位置する旧八雲村だ。ラジオ・電機・機械学の好きな少年だったが、戦後の銀行・農地改革で生家が没落。大学に進学するだけの余裕がない。そこで地元へ本社と研究部があり全国展開している三大総合農機メーカー・佐藤造機に就職するべく、当時難関と言われた松江工業高校機械科へ進学。卒業では農機メーカー50社のカタログを集めて耕運機の現状と将来について考察をまとめ1位に入賞。これが入社後、大いに役に立つ。先輩社員の誰よりも他社の情報に詳しい小松青年は新人社員ながら研究所に配属され、農機の開発設計に携わることになる。

「何のために、何をするかを常に考えて、今やることを選ぶ。これは昔から変わらないね」

先を見据えて何をすべきか論理的に考察し布石を打つ。周囲から見れば突拍子のない行動でも、小松氏の脳内に



上/シートシャッター開発の現場で、若手技術者と意見を交わす。下右/製品はすべてカスタムメイドの受注生産。在庫を抱えず、希望納期を跳いて運賃無料で複数の顧客を回れるよう納期を調整。物流費やCO2排出量も削減できる。下左/強風や内外の空気圧の差にも強いパイプ入りの「happy gate」門扉。電気は一切使わず空気圧で稼働するタイプや、マイナス25℃まで耐えるタイプなど開発は続いていく。

はミッションやビジョンがあり、そこに至るロジックが存在する。時が経ってビジョンが成就すると、周囲はようやく小松氏のかつての行動を理解できるというわけだ。

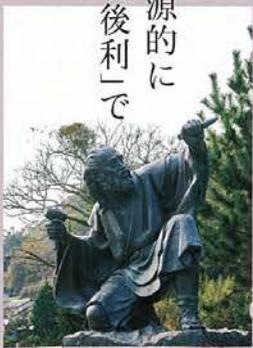
佐藤造機時代の小松青年も、周囲とは一線を画す存在だった。現状維持・先輩に倣えの社風を嫌い、装置の路線変更や耕運機からコンバインへの配置転換を実現。研究開発職ながら製造現

場や圃場に足繁く通い、現場の声や問題点を活かし、新たな農機を世に送り出していた。

「問題ありませんが一番の問題。何か問題はないか、困っていることはないか、とことん広く深く、観て聴いて考察を繰り返すこと。そこからひらめきが生まれ、問題から商材に、そして商品が誕生するのですから」

しかし入社8年後、大きな転機が訪

長期的、多面的、根源的に 「三方よし」と「先義後利」で 判断し行動する。



意宇川河畔にたつ彌兵衛翁像。出家し、たが一人で壁を築るう姿。高さ2.7m、幅2.8mの巨大な銅像は見ると圧倒する。

どんな生き方をするのかは定まった。しかし具体的に何をやるのかはわからない。そんな小松青年が向かったのは大阪。井の中の蛙にならぬため、商売の都で生きる人を観察し、小さな会社がアイデアと試行錯誤により大手に對抗している場面を目の当たりにした。そして1973年、小松青年は満を持して故郷に戻り弟とともに起業する。元手は2人の失業保険の30万円、

社屋は生家の納屋。5万円の中古トラックと工具箱ひとつの船出だった。

ポンプ修理業からスタートして電気の配電盤へ、さらに水道の計装システムへと分野を移行しながら拡大

しノウハウを蓄積。実績を上げていったが該合体質の改まらない業界と真っ向からぶつかり配電盤から撤退。倒産の危機も噂されたが、禍を転じて福となすというべきか。板金機械設備を転用し新開発したシートシャッターを製造。これが後の大ヒット「happy gate」門番に発展していくのである。山陰の冬の強い季節風という地域の悩み事を解決すべく生まれたシートシャッターは、使う側の希望に応じて防虫や抗菌、対低温、帯電防止など様々な用途開発を進め、今や世界中で使われている。

小松氏率いる小松電機産業の凄さは、このシートシャッターに関する技術を業界に公開しているところにある。「技術は囲い込まない。もしも小松が独占していて災害などで稼働できない事態になったら、どうなりますか。

業界全体で技術をシェアすれば、万が一の時もお客様を困らせることはない」

さらに扱う会社が複数になればシートシャッターの認知度も上がりマーケット自体が大きくなる。小さいパイを独占するより、大きくなったパイを増えた分だけ分けてもらうほうが良いと小松氏は言う。まさに「買手よし売り手よし世間よし」の「三方よし」であり、目先の利益より道義を優先すれば自ずと栄える。「先義後利」を地でいく話だ。

「買ひ百両、見切り千両、無欲万両」という言葉があります。無欲の行いには買ひ物の目利きや損きりの見極め以上の価値があるといえます」

目先の利より社会貢献。無欲の行い。

れる。地元の大企業・佐藤造機は業界の動きや時代を読み切れず経営破綻。実は倒産の3年前から小松氏は旧態然とした会社の体制に危うさを感じて、改善策を建言するも聞き入れられず会社は倒産。小松氏は退職。新たな道歩きはじめた。

会社が倒産する前、小松氏は今後の生き方を見出すため1ヶ月の休暇を取り安来の清水寺で座禅に入った。しかし考えても答えは得られない。「一時は昭和46年の豪雪の冬。雪の石段を下りる時、ひらめきが降りてきました。未来ではっきりしているのは死だけ。こればかりは、どんな人にも平等に訪れる。ならば死ぬ時に「ああ、おもしろかった、楽しかった。ありがとう」といえる人生を送ろうと」

死に際して後悔しない生き方とは何か？それが小松氏にとっては「一人のため、世のため、自分のため」になる事業をおこし、それを通して社会に貢献することだった。

参禅の最終日、雪の石段で突然降ってきた答えは小松氏の軸となり、時を経て小松電機産業の社は「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」に結実し、経営理念「おもしろおかしくたのしくゆかいに」につながっていくこととなる。

その行動には、小松氏の故郷の水の偉人・周藤彌兵衛翁の姿を重ねずにはいられない。

彌兵衛翁は、たび重なる意宇川の氾濫によって甚大な被害を被る村を救おうと、私財を投じ生涯の大半をかけて岩山の開削に打ち込んだ人物である。56歳で一念発起し、村人の非難や家族の不幸に見舞われながらも自ら礎と鑿を手にコツコツと岩を削り続けた。意宇川を迂回させるための切り通しが完成したのは97歳の時。その後、102歳で大往生を遂げたという。

「ああ、いい人生だった。死に際した彌兵衛翁も、そう思ったに違いない。40年以上に及ぶ無私無欲世のための行いは、令和の時代も人々の心の中に生きて、その思いは受け継がれていく。



彌兵衛翁、清原太兵衛の物語を後世へ伝えようと書籍を刊行した。



上/八雲町日吉の切り通し。開削以前は、刺山から続く線線が川をせき止めて氾濫を招いた。削られた断面は高さ20mを超えるという。下/今も壁の痕が残る手廻りの川床。

一隅を守り 千里を照らす

八雲立つ
出雲の地から
「平和・環境・健康はひとつ」を
世界へ発信する



小松電機産業株式会社代表取締役
人間自然科学研究所理事長
小松昭夫

文・構成 日高むつ子 写真 神庭恵子 デザイン 多田桐子

広

々とした穏やかな湖面にぼつんと浮かぶ嫁ヶ島。ゆらゆらとたゆとう波間には水鳥が浮かび、夕暮れともなれば息を呑むほどの絶景が広がる。そんな宍道湖を眺める高台に、「唯一無二の構想力で新たな産業を起しマーケットを創出してきた会社がある。」

ベンチャービジネスの旗手として財界・産業界に知らぬ者はない小松昭夫氏率いる小松電機産業だ。東京・豊洲市場をはじめ国内外で18万台・7000台以上採用されているシートシャッター「happy gate」門番システムと、市民公連携を提唱し防災対策としても注目されるクラウド総合水管理システム「やくも水神」をゼロから開発、市場を開拓し一つの産業分野として確立。その業績は高く評価され「ニュービジネス大賞」や「もりのづくり日本大賞優秀賞」、科学技術庁の「注目発明選定証」を受けている。

その一方で1994年にはシンク&ドゥタンク「人間自然科学研究所」を設立。平和・環境・健康の実践を通じて追求。四半世紀に及ぶ国境を超えた平和事業は国際的に注目されて、2013年、オランダ・ハーグの平和宮100周年事業「世界の平和ウィラ



上/工場や店舗、厨房などの出入口に設置されるシートシャッター「happy gate 門番」。中・下/水に関するあらゆる施設をクラウド管理する「やくも水神」。スマートフォンやタブレットで、災害などの緊急時にもスピーディに的確に対応できる。

上右/コンパクトで工事が簡単な自立型門番。非接触スイッチも標準装備。エアシャワーなど衛生設備との組み合わせがコロナ禍で注目されている。左上/シートはバリエーション豊富。透明性や採光性、防虫、帯電防止不燃など様々なニーズに対応。下/動作中に衝突しても自動的に復元。停電時も下部を持ち上げれば通り抜けられる超安心構造。

ンソロピスト（平和事業家）20人」にビル・ゲイツとともに選ばれている。ただ「happy gate 門番も「やくも水神」も日常生活の中で目にする機会のごく稀で、私たちがその存在を意識することは少ない。「門番」や「水神」が平和な日常を支える縁の下の力持ち的存在である以上、意識しないに越したことはない。また日々を穏やかに暮らしていると平和や環境、健康に思いをめぐらす機会も多くはない。しかし、こうした事業が地元で生まれ世界へ広がっているの知らないのは、実にもったいない。

「おもしろおかしくしたのしくゆかいに」を経営理念に、社業を通じて世界に喜びの輪を広げべく奮闘してきた小松氏に、人生・事業への思いや自らの使命・天命について話を聞いた。



小松電機産業株式会社
人間自然科学研究所
本社/島根県松江市八雲町東若坂180
事業所/島根県松江市乃木福富町735-188
松江湖南テクノパーク内
Tel.050-3161-2490
<https://www.komatsuelec.co.jp>
<https://www.hns.jp>



小松昭夫 こまつあきら
1944（昭和19）年、島根県八雲郡八雲村（現松江市八雲町）生まれ。島根県立松江工業高校機械科を卒業し佐藤造機（現三菱マヒンドラ農機）に入社。研究所でコンパインの開発設計に携わった。1973年創業。1994年に人間自然科学研究所を設立。2012年に新産業創造による社会貢献で藍綬褒章を授与される。2013年「世界の平和とフィランソピスト20人」、2014年スットナー賞に選出された。

島根県松江市八雲町に流れる意宇川日吉切通し

洪水を繰り返す暴れ川を1706年、56歳にして一念発起した周藤彌兵衛は岩山の剣山に槌とノミで切り開く苦行に立ち向かい、1747年、97歳にして日吉切通しを完成させ、意宇川の流れを変え洪水から村を守り意宇川の恵みをもたらした。



日吉切通し
ドローン映像



小松電機産業 人間自然科学研究所

